

GAIA

paradigm



技術士 東北

機 械	船舶・海洋	航空・宇宙	電 気 電 子	化 学	織 維	金 属
資 源 工 学	建 設	上 下 水 道	衛 生 工 学	農 業	森 林	水 産
經 営 工 学	情 報 工 学	応 用 理 学	生 物 工 学	環 境	原 子 力 ・ 放 射 線	総 合 技 術 監 理

東北本部 10年ビジョン

～ 東北の技術士会が実現すべき将来像 ～

制定：2023年5月30日

1. 会員サービスの向上

- ・ 会員の自己研鑽や後進育成のためのCPD行事等が充実している
- ・ 会員相互の交流が活発に行われ、幅広い人脈形成と人格形成ができる機会が増えている
- ・ 多くの若手技術士や女性技術士が日本技術士会の活動に積極的に参加している

2. 他団体との連携強化

- ・ 科学技術に関連する他の学協会等と、公益活動の共催やCPD行事等に関する相互参加が活発に行われて、協調体制が確立されている
- ・ 教育・研究機関（大学・高専等）との連携強化が図られ、科学技術の創造と教育、社会実装において、各々の立場から協力している

3. 技術士の知名度向上

- ・ 技術士は科学技術をもって持続可能な社会の実現に貢献し、その活動が社会に認知されている
- ・ 技術士・技術士会会員であることが、優れた科学技術と公益を優先した職業倫理を兼ね備えていると社会に認められている
- ・ 多くの技術者は技術士を目指し、技術士となった暁には日本技術士会に入会している

4. 安全文化（Safety Culture）の浸透と恒常化

- ・ 大震災と多様な災害を経験した地域本部として、技術士が「安全文化」による技術者倫理を学び、それを広く伝えることで、安全で安心な社会の実現に寄与している

「東北本部 10年ビジョン」について

私たち東北本部は、統括本部および他の地域本部等と協調し、東北の地域本部としての役割を果たしたいと考えております。この役割を果たすためには、将来あるべき姿の共通認識が必要と考え、東北本部設立50周年の節目でもある今年、「東北本部10年ビジョン」を作成しました。このビジョンの実現には、会員ならびに協賛団体、また関係する皆様のご支援とご協力が不可欠です。今後とも日本技術士会、東北の地域本部として、社会に貢献して参りますので、皆様のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2023年5月30日

日本技術士会東北本部

GAIA paradigm（ガイアパラダイム）とは

「GAIA」は、生命体である地球を意味し、「paradigm」は、科学者が普通に理解している考え方・新しいものの見方を意味し、「世界に向けて発信するパワーを秘めた東北の技術士集団」の「新たな考え」との意味を込めて命名されたものです。

も く じ

◇巻頭言	
・会員一人ひとりの活躍と東北地域の発展を目指して	（石川 弘子） 1
◇寄稿	
・「将棋」と「落語」そして「出前授業」も	（石井 知征） 2
◇技術漫歩	
・「海業」って知ってますか？	（松橋 利明） 6
◇技術士試験合格体験談	
・技術士第二次試験合格体験記 ～ 思考力を鍛える日々の取り組みで合格へ～	（伊藤 啓太） 9
・技術士第二次試験合格体験記	（八重樫絵理） 10
・なぜ“ほぼ無勉強”の私が合格率7%の狭き門を一発で突破できたのか	（遠藤 靖典） 11
◇催事報告	
・令和6年度技術士第一次・第二次試験合格者祝賀研修会・交流会の報告	12
◇委員会・部会活動報告	
・CPD委員会	15
・青年技術士交流委員会	16
・防災委員会	18
・倫理研究委員会 SGEE の会	19
・次世代インフラ研究委員会（旧：ITS研究委員会）	21
・男女共同参画推進委員会	23
・建設部会	24
・農業部会	25
・衛生工学・環境・上下水道部会	26
・電気電子部会	28
・応用理学部会	29
◇各県支部活動報告	
・青森県支部	30
・岩手県支部	32
・宮城県支部	34
・秋田県支部	35
・山形県支部	37
・福島県支部	39
◇わたしの趣味	
・「生涯剣道」をめざして	（清水 泰彦） 41
◇お知らせ	
・2025年度会長表彰受賞者	43
・2024年度後期新規入会者	44
・2025年度協賛団体	46
・機関誌「ガイアパラダイム」への広告募集について	48
◇あしがき	50

掲 示 板

1. 2025年度日本技術士会会長表彰において東北本部から8名の方が表彰されました。おめでとうございます。詳細は、お知らせを参照願います。
2. 4月25日に「令和6年度技術士第一次・第二次試験合格者祝賀研修会」が開催されました。詳細は催事報告をご覧ください。
3. 第53回年次大会は7月開催の予定です。また、2025年度東日本大震災復興10年事業は、9月に仙台市で講演やシンポジウム等を予定しております。詳細は東北本部ホームページでお知らせ予定です。多くの方の参加をお願いいたします。

巻頭言

会員一人ひとりの活躍と東北地域の発展を目指して



日本技術士会東北本部
理事 石川 弘子

このたび、東北本部理事に就任いたしました。ご支援くださった多くの皆様に改めて御礼申し上げます。「東北本部10年ビジョン」実現のため、理事立候補に際して掲げた課題等の解決に向けて、会員の皆様と邁進してまいりたいと存じます。

1. 技術力向上と人材育成の支援

東北地方では広い地域に会員が散在し、都市部と郊外で人口、施設数、交通の利便性などに大きな差が生じています。また、東北全体で人口減少と少子高齢化が進んでいます。このような状況下で、より多くの会員が活動に参加し、かつ次世代の技術士を輩出するためには、会員が活動に参加する機会を増やすとともに、地域差の解消を図ることが必要です。自己研鑽や後進育成のための行事を充実させ、Web開催なども活用して参加しやすい環境を整えながら、会員の技術力向上と、技術士を目指す人材の育成に努めてまいります。

また、同様の課題を抱える北海道本部、北陸本部と連携し、北東3地域本部の活動を強化していきます。

2. 東日本大震災の経験で得た教訓の伝承と発信

東日本大震災から学んだ教訓の一つに「安全文化」の概念があります。「安全文化」を一言で説明するのは難しいのですが、日本技術士会東北本部編「安全文化」（2024年11月発刊）を拝読しての私なりの理解は、「広い知識と技術力、倫理観をもつ個人・組織・行政が、安全を最優先し、公衆の幸せのために尽力する姿勢と考え方、そして安全の重要性にふさわしい配慮を行う気風」と捉えています。

私自身の理解が十分でないかもしれませんが、安全文化に対する考え方は個々人で異なる場合もあるでしょう。そのような違いも含めて、安全文化について学び、語り合い、考え続けながら次世代に伝え、

他地域へも継続的に情報を発信して、「安全文化」の広がりを目指していきたいと考えています。

災害は地球上のどの地域でも発生し得るものです。東北で得た教訓は我が国のみならず、世界の国々にとっても貴重な知見となることでしょう。

3. DEI（多様性、公平性、包摂性）の推進

日本技術士会は本年4月に「DEI推進宣言」を発表し、基本方針としてDEIを推進する3つの「シンカ」、すなわち、「意識の深化」「仕組みの進化」「社会貢献で真価」を掲げました。

しかし、誰もが能力を発揮し、誰もがその人らしく生きられる社会の実現への道は、困難も予想されます。多様性を認めて受け入れるには大きな意識改革が必要な場合もあるでしょうし、すべての人が活躍できるよう、一人ひとりの個性や特性に応じた環境やツールを公平に用意することは、言うほど易くはありません。東北本部におけるDEI推進の実現方法について、会員の皆様と知恵を出し合いながら考えていきたいと思えます。

4. 技術士の知名度向上

技術士は科学技術の応用面に携わる技術者の最高の国家資格ではありますが、現状では名称独占資格であり、社会的な知名度も十分に高いとは言えません。関連する学協会や教育機関との連携により知名度を高め、さらに、業務独占資格の実現に向けて統括本部へ働きかけていきたいと思えます。

会員一人ひとりが技術士として活躍し、それが東北地域の発展へとつながることを願い、東北本部の皆様とともに活動してまいります。ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

寄稿



「将棋」と「落語」そして「出前授業」も

石井 知征

技術士（建設部門、環境部門）

APECエンジニア

三協コンサルタント株式会社 技術顧問

1. はじめに

私が好きな「将棋」「落語」に加えて、日本技術士会東北本部山形県支部の社会学習委員会が行っている「出前授業」の実績なども紹介したい。

2. 業務経歴・技術士受験など

東京都港湾局から山形県土木部にUターン。始めは、港湾局時代に伊豆大島と三宅島の滑走路改良工事の経験もあり、山形空港のブルービング工事の設計・監督を担当。ブルービング工事は航空機の離着陸時のハイドロプレーニングを防止するための工事。試験空港として日本で初めて実施。この工事は山形県で初の「全建賞」を受賞。

その後、道路の業務（計画・設計・監督など）が多かった。この時に（株）復建技術コンサルタント山形営業所の大高所長（当時）から「技術士を受けてみないか」と声をかけられたのが技術士受験のキッカケ。アドバイスは、技術士会の元東北本部長の吉川謙造さん他にお世話になりました。おかげさまで建設部門（道路）に合格。

また、国立公園内の登山道や避難小屋の改修工事、植生復元工事なども担当。登山道整備では植生への負荷の軽減を図ることを目的として、木歩道の杭を打たずに横に寝かせて施工。また、水も電気もない大朝日岳避難小屋に水洗トイレを整備。微生物により分解・処理した水を、足踏みポンプにより水を流すという仕掛け。この工事は「日本トイレ賞」を受賞。これらのことを題材として、環境部門（自然環境保全）に合格。

3. 将棋

3.1 将棋との関わり

日本将棋連盟山形県支部連合会では、これまで、会計、事務局長を務めていたが、2022年に当時の

幹事長が急逝し、幹事長に就任。翌23年の県支部連合会総会において会長の指名を受けて現在に至っている。五段、棋道指導員。

将棋との出会いは高校1年のころ。その後、山形県職員として主に土木畑を歩み、将棋では山形県庁支部チームとして、県職場・団体対抗将棋大会で優勝が3回。個人では、朝日アマ将棋名人戦県大会と支部名人戦県大会で準優勝が2回。朝日アマの決勝で対戦した方は、元全国アマ名人の西澤玄章さん。準決勝によりやく勝ち、息も絶え絶えに決勝にたどりついた私に対し、西澤さんは準決勝も余裕を持って勝利したらしい。決勝は西澤さんに余された。

3.2 藤井聡太さんの出現

突如現れた藤井聡太少年が歩んだ道のりは、前代未聞の新記録づくしだった。プロ棋士で詰め将棋を得意とする方が多く参加する「詰め将棋回答選手権」に小学生で参加し優勝。その後5連覇。また、史上最年少で三段リーグ「一期抜け」を果たし、その後社会現象ともなったプロデビュー後29連勝。

スター棋士たちと互角以上の成績を残しても、決しておごらず、ただ一筋に将棋道を邁進しているように感じる。

3.3 藤井聡太ブーム

藤井聡太ブームが起きて、天童駅に併設している「天童将棋交流室」（天童市が設置・管理）で行っている少年少女将棋教室には申し込みが殺到したことを覚えている。

コロナ禍の中、3年前の4月に開催された天童市の「人間将棋」。大規模なイベントは開催できないような風潮があった。特に、藤井さんを招いての開催とあって、密集を防ぐために抽選により観客人数を制限するなどの対策を取って、英断を持って開催にこぎつけた。これらについては、あの「文春」からお褒めの言葉があった。

3.4 羽生会長は超激務

この4月、羽生善治会長は次期の連盟理事選挙に立候補しないと表明した。つまり、会長続投の芽はなくなった。

1989年に初タイトルの竜王を19歳で獲得。94年に名人を獲得。96年に前人未踏の「七冠制覇」を達成。そして「永世竜王」「永世七冠」を達成。2018年に棋士として初めて「国民栄誉賞」を授与された。通算獲得タイトルは99期を数える。まさに将棋界最高のレジェンドである。

羽生会長は超激務。まさに将棋界の顔として、全国各地のイベントへの出席が多い。それに伴い研究時間が減った。AIの導入で大きく変わった将棋界。藤井七冠のみならず、若手の実力も上がり、まさに研究勝負になっている気がする。

タイトル通算100期が視線の先にあるのだろう。1期2年は短く感じますが、創立100年記念事業や新将棋会館の落成といった大事業を達成していただきました。心より感謝申し上げます。

3.5 羽生会長と同席した今年のイベント

- 3月 小学生将棋名人戦東日本・西日本大会 (天童)
- 4月 将棋モニュメント除幕式 (天童駅)
- 6月 全国アマチュア竜王戦 (天童)
- 8月 全国中学生選抜将棋選手権大会 (天童・45回記念セレモニーにて三笠宮彬子女王殿下の前で、私に乾杯の大役)
- ※人前であがってしまうということがなかったが、2mほどの近くにられる女王殿下を目の当たりにして、「アー、今あがってるなー」と実感。
- 9月 日本将棋連盟創立100周年記念支部連合会会長会議 (東京)、翌日に新将棋会館落成記念式典 (東京・帝国ホテル)
- ※10年前の人間将棋でお世話になったつるの剛士さんやサバンナの高橋茂雄さんにお目にかかれた (お二人とも将棋親善大使)。この時点で4月の天童人間将棋に来童されるとは聞いていなかった。
- 11月 「棋道指導員」資格証書伝達式 (東京) (写真1)



写真1. 資格証書伝達式後、羽生 会長と一緒に撮影 (撮影：木村 一基 九段)

3.6 県支部連合会の主な事業

- 3月 支部名人戦・同対抗戦、県アマ将棋名人戦、小学生名人戦東日本・西日本・決勝大会
- 5月 県将棋選手権大会、県アマ竜王戦
- 6月 県将棋最強戦
- 7月 東北六県将棋大会
- 8月 全国中学生選抜将棋選手権大会
- 9月 県健康福祉祭将棋大会
- 11月 県職場・団体対抗将棋大会
- 12月 小学生名人戦、東北六県ジュニア団体戦
- 他にプロタイトル戦や全国大会が年1回くらい。

3.7 天童の人間将棋

折角の機会ですので、70回を迎えた2025年の天童桜まつり「人間将棋」を紹介します。人間将棋は天童市の舞鶴山山頂において、4月12日(土)から13日(日)にかけて開催された。

初日の午前には、将棋代指しロボットVSお笑い芸人サバンナのお二人(実質、高橋茂雄さん)(写真2)。解説の木村一基九段のヒントを理解したサバンナの勝ち。



写真2. サバンナのお二人と一緒に撮影 (撮影：木村 九段)

午後は、山口恵梨子女流三段 VS 小高佐季子女流初段による人間将棋。解説は木村一基九段。駒武者は地元の県立天童高校と創学館高校の生徒。

夕方から、第 70 回天童桜まつり「人間将棋」の懇親会。プロ棋士にゲストのつるの剛士さんの他、天童市と姉妹都市の方々との交流もありました。

二日目の午前は、プロ棋士とゲストのつるのさんによるトークショー。司会がNHKでもおなじみの山口女流三段。午後に、森内俊之九段 VS 木村一基九段の人間将棋。解説が谷川浩司十七世名人で聞き手が山口女流三段とつるのさん。

駒武者は、地元の阿部健治郎七段と岡部怜央五段に加えた全国からの一般公募の方。

私どもは、主に自由対局コーナーを担当。二日目はあいにくの天気で、冷たい風が強く、防寒対策も大変。県内外の多くの愛棋家の皆様と指しました。

4. 落語

4.1 立川談志師匠

30代前半に地元村山で寄席の会を主宰していた。その時に「(自称)誠意だけの、金のならないプロモーター」として立川談志師匠から信用していただいた。第 1 回に出演後、10回、20回と節目に来演。談志師匠とのエピソードは数多くあるが、そのうち一つを紹介。新宿の紀伊國屋ホールでの独演会の打ち上げ後にエレベータで降下中、「石井君、今日暇？」と聞かれた。師匠を囲む人たちは有名人ばかり。お世辞で言ってくれたのかと思い「師匠すみません、今日は時間がありません」と答えたところ、「明日の夜は？」とのこと。

本当のところは、今晚が暇で明日に用事があったのだが「明日は大丈夫です」と答えざるを得なかった。「明日の夜 8 時、銀座のバー宮で。名古屋で落語会があるので、先に行って飲んでいてくれ」とのこと。私はキッチリ 8 時に有楽町駅から電話。「どなたとお待ち合わせですか」「談志師匠とです」「お待ちかねです」とのこと。アルマーニの制服で有名になった、泰明小学校の脇を走った走った。

色んな話をさせていただいた。カウンターのパトルには、相撲の横綱「輪島」、女優の「藤純子」などの干社札。今思い出しても違う世界に入ってしまったと思えた。かなり前になるが、NHKの「のど自慢」で伴奏がアコーディオンの横森良造さんを

知っておられる方は、私の年代前後か。その横森さんが流しで宮に来店。懐メロが大好きな師匠。楽しい時間を過ごしました。

師匠とは、六代目三遊亭円楽襲名披露パーティーが開かれた 2010 年 3 月 5 日の東京・帝国ホテルが、最後にお目にかかった日。中尾彬さんと熱心に話をされており、ようやく師匠と話ができた。手を取り合って 5 分も話しただろうか。師匠の手は温かったが、筋肉の張りがまったく感じられず、アー、長くはないなと感じてしまった。

隣におられた中尾さんには、立川ぜん馬さんから「山形の村山で落語会をやっていただいている」と紹介してくれた。ネジネジの中尾さんから「こういう方がいると良いんだよねー」とうれしい一言。

翌 2011 年 12 月のお別れ会に上京。早く着いた会場には楽太郎師匠(後に六代目三遊亭円楽を襲名)と立川ぜん馬師匠がおられた。楽太郎さんは僧侶でもあり、袈裟をかけておられた。

明るいお別れ会でした。石原慎太郎さんが弔辞。日野皓正さんが葬送のトランペット。周りは著名人ばかり。その中の一人として付き合っていただき、談志師匠の近くで同じ空気が吸えたことを、改めて実感させていただいた。

4.2 六代目三遊亭円楽師匠 (三遊亭楽太郎)

楽太郎さんとぜん馬さんを、寄席の会に「ライバル激突！」ということで共演いただいた。それ以来 45 年に近い付き合いがあった。六代目円楽さんと私は同い年、ぜん馬さんが一つ年上。その円楽さんは一昨年に、更にぜん馬さんは昨年暮れに亡くなってしまいました。本当に残念で悔しい思いでいっぱいです(写真 3)。



写真 3. 六代目円楽師匠からのハガキ

4.3 七代目三遊亭円楽師匠

この2月に七代目三遊亭円楽を襲名披露した三遊亭王楽師匠。五代目円楽師匠の最後の弟子。兄弟子で父親がご存じ三遊亭好楽師匠。王楽さんは六代目円楽師匠から実力を貰われた。王楽さんに言わせると「いつも小言や怒られてばかり」とのこと。それだけ期待されていたことが伺える。

本年7月27日（日）に、山形・村山で七代目三遊亭円楽襲名披露落語会を開催予定。共演は三遊亭好楽師匠他。

5. 出前授業

5.1 建設産業を取り巻く環境

近年の東日本大震災や能登半島地震などの大規模地震などを含めた気象災害に対応した社会インフラ整備と、維持管理が大きな問題となっている中で、次世代を担う若者の土木離れが進行している。

そこで小中学生の子どもやその親を含めた“土木離れ”に対処すべく、小中学生を中心とした出前授業を企画・実施している。

県の総合支庁において、建設産業を取り巻く環境についての認識は同じとして、全面的な協力をいただいている。置賜総合支庁管内で出前授業を実施した際に、担当の県職員から、高校の土木の生徒に橋梁の現場見学会を実施したところ、高校の先生から「この企画は大変ありがたいが、小学校や中学校の生徒から土木に興味をもっていただき、当校に入っていたきたい」との要望があったと伺った。

そのような意味で、本支部が実施している出前授業は、県の意向と同じ方向を向いていることから、共催していただいている。

総合支庁からのマスコミへのプレスリリースの効果は絶大で、毎回新聞社やテレビなどの取材がある。試行した2016年は、県支部社会学習委員会から県庁の記者クラブにプレスリリースを投げ込みをしたものの、取材はなかった。

5.2 実績や後援名義使用申請など

2016年に3校にて試行。翌17年から県支部の事業として取り組んでいる。

主に小中学生を対象とした出前授業の実績は、延べ50校、3958名を数える。

下記の団体から後援を受け、その他、協力を受けている団体も多くあります。

【後援名義使用申請】

山形県知事（県県土整備部）、山形県教育委員会教育長、山形新聞・山形放送

【後援（申請不要）】

山形県建設技術センター、山形県建設業協会、山形県建設コンサルタント協会、山形県測量設計業協会、山形県立産業技術短期大学校

5.3 県立産業技術短期大学校での講義

2020年より、県立産業技術短期大学校土木エンジニアリング科にて、「防災」と「技術者倫理」についての講義を担当。

5.4 新たな展開も

4月に、県の県土整備部建設企画課長さんから、「中学生に建設業への興味をもってもらうための事業を部として企画しているので、技術士会から協力願いたい」とのこと。「協力します」と即答。

新たな展開が予想される。

5.5 出前授業の紹介

2024年は、6校から995名の受講をいただいた。その中から、山形市立南沼原小学校の授業を紹介する。同校のPTA会長が当支部の会員でスムーズにことが進んだ。“はらっぱ授業”として、PTAからのプレゼントとのこと。

低学年1～3年の400名と、高学年4～6年の400名（あまりに偶然）の2部に分けて行った。

低学年は、PowerPoint を用いて質問形式・参加型として行い、質問に手をあげる手法を取ったところ、反応が想像以上に良く、多くの児童が手をあげて答えてくれた。これは嬉しかった（写真4）。



写真4. 山形市立南沼原小・低学年の授業の様子

技術漫歩

「海業」って知ってますか？



松橋 利明

技術士（水産部門、農業部門、建設部門、
総合技術監理部門）

株式会社 センク 21 青森事務所長

1. はじめに

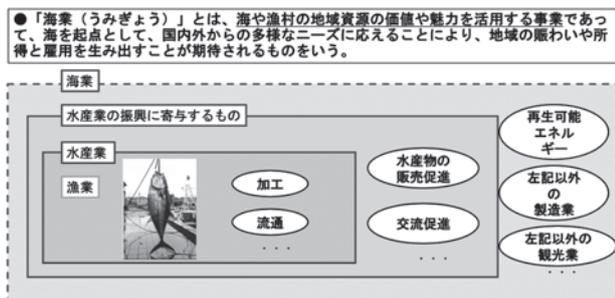
最近、マスコミ等でよく「海業」が取り上げられている。「海業（うみぎょう）」という聞き慣れない言葉は、1980年代半ばに当時神奈川県三浦市の市長が提唱したといわれている。これは、地元の漁業を漁業だけでなく観光業などと一体的に盛り上げようというもので、海の持つ多様な価値や潜在能力を生かした、経済活動の総称と言える。このことから、どこまでやると「海業」といった境界線もあいまいである。

今回は、紙面をお借りして、これまでの「海業」だったとおもわれる事例も含めて、これからの「海業」のあり方を考えてみたい。

2. 「海業」のイメージと具体例

2.1 海業イメージ

一般の人が、海業そのものをイメージすることは難しい。そこで、これまでの講習会等で示された資料等を基に、海業のイメージを図1に示す。



2025.1.16 青森県漁港漁場整備事業研修会資料

図1. 「海業（うみぎょう）」とは

2.2 海業のあゆみ

(1) 昭和後期の海業

このころは学校にまだプールなど無く、夏場の水遊びは海に出かける。お盆を挟んだ休みには、車に乗って家族で海水浴に出かけるのが夏の定番だった。

青森県の日本海側の海岸沿い（このころは津軽のウェストコーストと自分は呼んでいた）の道路は、車で溢れかえる。道路沿いからは、どこの海辺へもアクセス可能である。海辺は、磯浜、砂浜その家族の好みで遊ぶ海岸を選ぶことができた。

海岸沿いの道路には、俄か売店が出現し、海水浴用の水中眼鏡、浮き輪といったものはもちろん、焼きイカ、アイスクリームなどなんでも買うことができた。海水浴の後は、道路沿いのドライブインでの食事もまた楽しみの一つだった。そのドライブインで提供されるウニやアワビは、地元の漁師がその日にとった鮮度抜群のものが供給され、美味しさは言わずもがなである。

夏限定ではあるが、海の持つ多様な価値や潜在能力を生かした経済活動であり、昭和の後期の津軽のウェストコーストでは、まさに「海業」が回っていて、漁村地域は大いに潤ったのである（写真1、写真2）。



写真1. どこの海岸も海水浴客で溢れかえていた様子



写真2. 浜辺には自由にアクセスできた様子

(2) 平成前期の海業

平成に入ると漁村地域で海水浴を中心に回っていた「海業」に変化が現れた。その要因として、海岸線に護岸等が整備され、海岸へのアクセスが困難になったことが挙げられる。このため、沿岸市町村からこの代替措置として海水浴場整備の要望が、海岸を管理する当局に盛んに行われた。その結果、沿岸市町村に一か所の割合で海水浴場が整備された。しかし、整備されたどの海水浴場も階段式護岸に砂浜といった定番の整備。いわば金太郎あめ状態で、物足りなれない印象を海水浴客に与える結果となった。このため、海水浴場は減少し、夏限定の「海業」は衰退していったのである（写真3）。



青森県漁港写真集より

写真3. どの海岸も往時の賑わいはなくなった様子

(3) 平成後期の海業

平成後期に入ると、日本の各地方自治体と道路管理者が連携して設置する「道の駅」が各地に道路施設として整備されるようになった。その中核を担ったのは、地域振興施設として設置された産直だった。青森県の沿岸市町村では、平成15年に日本海に面する深浦町でオープンした。その、道の駅ふかうら「かそせいか焼き村」では、地域で水揚げされた新鮮な海産物を地元ならではの価格で提供し、食事も楽しめ、夏場には近くの海水浴場で遊べる。また、世界自然遺産、白神山地に訪れる観光客も立ち寄るスポットとなり、道の駅利用客は右肩上がりが増えていった。そのため、年間を通して平準的な売り上げがあり、魚介類を提供する地元漁業者にとっても、安定した収入を確保できるようになった。このほか、農漁業者自らが、海産物を利用した加工販売、農産品など加工販売、宿泊業などへ取り組む、1次×2次×3次=6次産業化の推進にも大いに寄与した。地元にとって、昭和の時代の夏限定「海業」から、オールシーズンで展開される「海業」へと転換

が図られ、漁業地域にとって望ましい経済効果が発揮されるようになったのである（写真4、写真5）。



写真は深浦町HPより

写真4. 道の駅ふかうら「かそせいか焼き村」



写真は深浦町HPより

写真5. 新鮮な魚介類が陳列の様子(魚のさばきは無料)

一方で、朝市を中心とした「海業」が始まったのもこのころである。

八戸の朝市は、終戦後の昭和28年から陸奥湊駅前で開催された歴史があり、終戦後の物不足が続く中、青森県の県南地方から来る多くの人で賑わいを見せた。しかし、移動手段が人から車へと変わると駐車場が不足していた。平成に入ると朝市の来客者は増え、狭い道路に路上駐車があふれ、地域住民とのトラブルが頻発した。このことから、朝市の慢性的な混雑解消のため、駐車場の確保が喫緊の課題となった。この窮状を、八戸漁港が救うこととなる。

八戸漁港は、平成に入ると前沖の資源水準の悪化による漁獲量の減少が深刻化した。このような状況の中、八戸漁港においても、かつては大量に水揚げされたイワシやサバ、イカが以前ほど獲れなくなったため、水揚げ高は減少。年間80万トン時代に整備された漁港施設は遊休化することとなる。

このため、朝市出店者たちにより、来客者の駐車場を確保しやすい館鼻漁港への移転運動が展開され

ることとなった。これを受け、漁港を管理する青森県は、漁業活動上の支障にならない遊休用地の有効活用の観点から、漁港用地を朝市として使用することに同意し、「八戸館鼻（たてはな）岸壁朝市」が開催されるようになった。平成 16 年 3 月のことであった。

当朝市は、毎年 3 月から 12 月の毎週日曜朝に開催され、出店数は約 350 店にも及ぶ。販売する種類も生鮮食料品から工芸品まで多彩であり、来場者が毎週 3 万人以上の全国でも大規模な朝市である。この後、青森県沿岸市町村各地の漁港で朝市が開催されるようになった（写真 6）。これまでの、漁業者たちが中心になって行っていた「海業」の一環としての朝市から、漁港というキャンパスの中に、食品・衣料品・雑貨・飲食店など様々な分野の店が出店し、消費者の興味を引きつける、「エンタメ」化へと進展した瞬間でもあった。



写真 6. 八戸館鼻岸壁朝市（漁港サポート会提供）

2.3 今後の海業のありかた

私見ではあるが、今後の海業のありかたを考えてみたい。

まず、第一義として、地域の漁業者が持続可能な漁業活動を営めることが重要と考える。であれば、昭和後期のように、域外から人が押し寄せ、地域の魚介類を買い求め、その結果地域の経済が回ることに理想である。ただ、この時代のように夏限定といった期間が限られたものではなく、通年で来客を呼び込み来客者に通年で漁獲物を供給できれば、漁業収入も平準化され持続可能な漁業活動を営めると考える。

通年で来客を呼び込める取り組みとしては、八戸漁港のような「朝市」を中心に据えた「海業」が考えられる。しかし、これを可能にしているのは、八戸漁港という広大なフィールドがあることで実現

している。このことから、他地域に当てはめることは現実的とは思えない。現実的には、道の駅ふかうら「かそせいか焼き村」のような既存の施設を最大限活用する。そこでは、地域で水揚げされた新鮮な海産物を地元ならではの価格で提供し、食事も楽しむ、夏場には近くの海水浴場で遊べる。また、周辺の観光資源とコラボして、ご当地グルメなどを提供するなど、様々なパッケージを提供できるように取り組みを始めてはいかがだろうか。

イメージとしては図 2 のように考える。

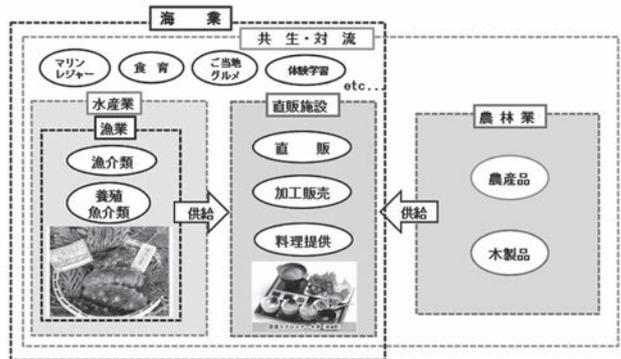


図 2. 今後の海業のありかた（イメージ）

3. おわりに

日本の漁業地域の衰退は、急激に進んでいる。少子高齢化の進展による漁業者の減少、気候変動などによる漁業資源の減少など、いくつかの要因があるにせよ、海の恵みを享受して繁栄してきたわが国にとって、これは深刻な問題である。

地方から都会に出た若者たちのインタビューが、あるテレビ番組で放送されていた。そのインタビューでは、「地方はつまらない」と言った声が大半を占めた。ならば、つまらない地方をつくれればいい。海をキャンバスに、地域の特色を前面に押し出し、出かけるたびにサプライズがある、つまらない地方を「海業」で演出できれば、漁業地域の将来は明るいと思う。ガンバレ「海業」。

技術士試験合格体験談**2024年度 応用理学部門****技術士第二次試験合格体験記****～ 思考力を鍛える日々の取り組みで合格へ ～****伊藤 啓太**

技術士（応用理学部門）

奥山ボーリング株式会社 技術部技術課 主任

1. はじめに

私は大学院修了後、入社2年目に技術士第一次試験に合格し、7年目の2024年度に技術士第二次試験（応用理学部門 地質）に合格しました。所属会社では、トンネル、橋梁下部工、軟弱地盤、地すべり、斜面災害等の調査解析業務に従事しています。「早期に技術士になればカッコいいじゃん！」という単純な理由で挑戦しました。

2. 試験対策・感想**2.1 試験準備**

第一次試験合格直後に、第二次試験の内容を知るために筆記試験や受験申込に関する外部講習を受講しました。そこでコンピテンシーの考え方を知り、受験資格を得るまで漠然とコンピテンシーを意識しながら業務にあたりました。受験資格を得る過程で別試験などでも技術士第二次試験を意識して筆記試験や口頭試験に臨み、モチベーションを高めました。また、合格体験記をかなり読み込み、落ちる人の特徴や行動、受かる人の特徴・考え方を学びました。受験申込時は、別試験の受験時の申込書をベースに業務内容の詳細を作成しました。社内の技術士から直接添削を受け、口頭試験を意識して準備しました。

2.2 筆記試験

コンピテンシーの解説、A評価論文、合格体験記を学習データとして、筆記試験で求められるアウトプットを最初に理解しました。その上で、思考力を鍛えることこそ合格への近道であると認識して日々の業務遂行過程で思考力を養うように工夫しました。特に実務経験（場数、業務量、自分の引き出し）が不足している自覚があったため、大学時代から続けているドクタージェネラル方式の学習を実践しました。担当外業務や過去の事例の地形・地質条件、調査結果をみて、自分だったらどうするか（したか）を考え続けました。理解できなければ関連知識を学

んだ上で、どうしてそう判断したのかを担当者とディベートして経験不足を補い、引き出しを増やしました。本来は複数人で実践する方法ですが、一人でもできますし、場合に応じて上司、同僚とコミュニケーションを取りながら楽しく学習でき、効果的ですので皆様におすすめしたいです（自己主導型学習ともいうようです）。育児休業もあり過去問を自力で解く、白書を読み込む、など多くの方が実践されている筆記試験対策を実施できませんでした。ただし、骨子法やキーワードの必要性、コンピテンシーを意識した回答になるか、題意に即しているか等のテクニックについては理解したうえで当日を迎えました。試験終了後は思ったよりも書けましたし問題も面白く、「楽しかった～」という満足感がありました。

2.3 口頭試験

筆記試験突破に驚きつつ、すぐに上司の勧めで外部模擬試験に申し込み、その日のうちに社内で口頭試験ガイダンスを受けました。複数の外部講習や模擬面接を受講し対策を練り、出張時には車内で録音した口頭模擬試験を再生し、回答部分で停止して毎回自分の言葉で回答したり、回答を考え直したりしました。この時の学習でコンピテンシーを完全に理解できたと感じます。当日も緊張しましたが、合格発表が近づいた3月上旬の方が緊張しました。

3. おわりに

まさか自分が第二次試験を一発で合格できるとは思いませんでした。振り返ると、試験のためにする対策よりも、技術士を意識した日々の取り組みこそが、専門知識の積み重ねや問題解決能力、課題遂行能力、実務能力の向上に直結していたのだ、と感じます。今後も楽しむ気持ちを忘れずに、誠実に生き、挑戦し、献身したいと思います。特に口頭試験は関わっていただいた皆様の支えなしには合格できませんでした。この場を借りて深く感謝申し上げます。

技術士試験合格体験談



2024年度 建設部門

技術士第二次試験合格体験記

八重樫 絵理

技術士（建設部門）

パシフィックコンサルタンツ株式会社 東北支社
社会イノベーション事業部 交通政策室 技師

1. はじめに

私は、総合建設コンサルタントであるパシフィックコンサルタンツ(株)に契約社員として入社し、11年目となる2024年度に技術士第二次試験に合格しました。入社3年目より第二次試験に挑戦し、9回目での合格と長い時間を要した例となりますが、自身の経験から合格を掴むために重要と感じた「受験動機」「業務経験・立場」「試験対策」の3点を体験談として記させていただきます。

2. 受験動機

私にとって、技術士は建設コンサルタントの業務受注にあたり管理技術者として必要な資格要件であると共に、正社員登用を目指す上で必須のものでした。業務経験を積み、周囲の先輩方の課題解決や顧客対応の取り組み姿勢を学んでいく過程で、より責任のある立場で業務を遂行し周囲から信頼される技術者になりたい思いが強まり、正社員となって、社内外から信頼される技術者となることが目標となりました。業務や家庭と並行して試験対策をしていく上で、この動機こそが苦しい時の支えとなりました。

3. 業務経験・立場

合格までの過程を通じ、日頃の業務において、技術士として求められるコンピテンシーを意識して取り組むことが重要であると痛感しています。私自身、業務経験を積み、担当範囲の拡大に比例して業務への責任感・技術力の向上を実感しました。特に合格した11年目は民間業務において業務責任者として従事したことでコンピテンシーへの意識がより高まり、その中で培った実務能力や取り組み姿勢が口頭試験合格に繋がったものと感じています。

4. 試験対策

4.1 業務経歴・業務内容の詳細

ここでは、口頭試験において問われる技術士のコ

ンピテンシーを示すことを意識した準備が必要です。経歴の面では、経験年数を積み多様な業務に従事していることをアピールすると共に、詳述については、問題分析により解決の方向性を検討し、実現上のハードルを踏まえた最適な解決策を提案するプロセスを整理することが重要であったと考えます。

4.2 筆記試験

専門的学識を深めるための最新動向のインプットにおいては、社内合格者の勉強事例を参考に、国土交通白書等で最新の政策動向を確認し、施策の背景や問題、課題、解決策、新たなリスクの流れで骨子を作成しました。論文作成にあたっては、合格論文を参考に設問ごとの書き方を把握した上で、社内模擬試験を活用し、最新動向テーマで論文を作成し添削いただきながら訓練することが有効でした。

4.3 口頭試験

筆記試験合格発表からの準備期間は1か月程度と短く、社内合格者の想定問答事例を参考に自身の回答案を作成した上で、社内外で毎週に模擬面接を実施していただきました。業務との兼ね合いで思うように準備が進まない時もありましたが、技術士を目指す理由と周囲の励ましが心の支えとなり、模擬面接で回答に苦慮した点を中心に復習したことで、本番で力を発揮することができました。

5. おわりに（今後の抱負）

合格発表後は、日頃からご指導をいただいている上司、先輩方、同僚、恩師や家族が共に喜んでくれ、改めて周囲の皆さまの支えがあって頑張れてこれたのだと感謝を実感しました。

遅ればせながら技術者としてのスタートラインに立つことができた今、今後は現在の保有技術を核に視野を拡げながら、移動に関わる社会課題に最適解を見いだすことができる技術者、顧客が困ったときに頼ってもらえる信頼される技術者を目指し成長していきたいと考えています。

技術士試験合格体験談**2024年度 情報工学部門****なぜ“ほぼ無勉強”の私が
合格率7%の狭き門を一発で突破できたのか****遠藤 靖典**

技術士（情報工学部門）

Anvelno技術士事務所 所長

1. はじめに

正直に申し上げますと、かつて私は技術士試験に対してあまり良い印象を持っていませんでした。

建設部門であれば入札要件に関わる実利がありますが、こと情報工学部門においてはそういったものは特にありません。それよりも、情報処理推進機構（IPA）や各種ベンダーの資格の方がよほど有利です。事実、日経クロステックによる「役に立った資格ランキング（2024年版）」では技術士はランク外で、ITパスポート試験にすら及びませんでした。

そんな中、私が技術士試験を受けるきっかけになったのは、技術士に挑戦している友人Tの存在でした。Tの紹介で「技術士試験研鑽会」に参加させてもらったのが受験のきっかけでした。

2. 申込書類の作成

私が技術士試験の受験を決めたのが3月下旬のことで、申し込み締め切りまで1カ月もない状況でした。早速自己流で業務経歴を書きました。

研鑽会でまず指摘されたのが、「業務内容が技術士法の定義（計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらに関する指導）に沿っていない」「業務詳細の1文1文が長すぎる（一文一意でない）」「目的、技術的な工夫、成果、波及効果等の全てがあいまいで、コンピテンシーが伝わらない」などと、手厳しい意見でした。そこからメンバーと幾度も議論し、計8回の書き直しを経て、最終稿が完成しました。今思えば、この研鑽会における徹底的な指導を受けたことでコンピテンシーに関する理解が深まり、試験合格の大きな要因となったと感じています。

3. 筆記試験

筆記試験対策としては、過去問演習をやろうと思いきや一通りの過去問をダウンロードしましたが、時間が取れず結局1問も解けずに終わりました。

そうして「無勉強」で迎えた筆記試験本番、ぶっ

つけ本番の“記念受験”のようなもので、ある意味開き直って臨みました。今思えば、そのおかげでかえって平常心で受験できたことが、合格につながったのかもしれない。

仮に記念受験とはいえども試験は真剣勝負、時間配分もわからず、急いで骨子を作成し、とりあえずは解答できるという確信を得ました。答案の作成においては、なるべく身近な題材（実家の車屋でのIT導入、飲食店での配達ロボ導入など）を挙げることで、解像度の高い答案を心掛けました。

4. 口頭試験

筆記試験は落ちていると思っていたため特に準備はせず、合格発表後に突貫工事で対策を始めました。模擬面接を計3回実施したほか、音声合成ソフトで想定問答を音声化し、セルフ問答を繰り返しました。

その準備のおかげでリラックスして試験に臨むことができ、面接官の方々のリアクション（うなずき）から合格を確信しました。

5. おわりに

技術士試験は、コンピテンシーを通じて技術者としての「総合力」を問う大きな意義がある試験であると、受験の過程で実感しました。今後受験する皆様におかれましては、日常業務で8つのコンピテンシーを少しだけ意識してみてください。次に、骨子を答案に落とし込む「国語力」を鍛えてください。

技術士の資格は、使わなければただの飾りです。私は独立技術士として、地域のIT・DX化を伴走支援し、地方から日本全体を元気にすることをミッションに活動しています。屋号のAnvelnoは、地元・庄内の言葉「あんべいい（＝ちょうどいい、塩梅がよい）」に由来しており、顧客にとって“ちょうどいいDX”を実現したいという思いで名付けました。

最後に、共に技術士試験を戦ってくれた研鑽会メンバーへの感謝をもって、結びとします。

催事報告

令和 6 年度技術士第一次・第二次試験 合格者祝賀研修会・交流会の報告

1. はじめに

2025年4月25日に令和6年度技術士第一次・第二次試験合格者祝賀研修会・交流会を開催いたしました。本祝賀研修会は、第一次試験および第二次試験合格者をお祝いするとともに、技術士会の活動を知っていただき、当会への入会を促すことを目的としています。本稿ではその結果についてご報告いたします。

2. 開催概要

日 時：2025年4月25日(金) 14:30～17:00

場 所：TKP ガーデンシティ PREMIUM

仙台西口6階6B

参加者：第一次合格者：12名(会場8名、Web4名)

第二次合格者：14名(会場12名、Web2名)

会員参加：61名(会場46名、Web15名)

合計：87名(会場66名、Web21名)

内 容：

【主催者挨拶】

遠藤 敏雄 東北本部長

【祝 辞】

佐久間 章夫 理事：

(代読 有馬 義二 事務局次長)

【日本技術士会の案内 他】

滝上 忠彦 事務局長

【合格者体験発表】

1) 伊藤 啓太 氏 (奥山ポーリング (株))

2) 八重樫 絵理 氏

(パシフィックコンサルタンツ (株))

【記念講演】「技術者倫理のいま」

佐々木 源 (倫理研究委員会副委員長)

【閉会の挨拶】 渡辺 将之 (副本部長)

(司会) 有馬 義二 事務局次長

3. 研修会開催内容

(1) 挨拶、祝辞

遠藤本部長より合格者の皆さま、参加者の皆様へご挨拶をいただきました。続いて、佐久間理事(東北本部選出)からの祝辞を司会の有馬事務局次長による代読でいただきました(写真1、写真2)。



写真1. 遠藤 本部長による開催挨拶



写真2. 有馬 事務局次長による祝辞(代読)

(2) 日本技術士会からの案内

滝上事務局長より、①令和6年度の技術士試験結果、②技術士試験制度、③日本技術士会について、

④技術士CPD（継続研鑽）制度、⑤東北本部の紹介について説明がありました（写真3）。

技術士試験制度については、改訂版コンピテンシーの適用などの令和8年度からの変更点についての説明をいただきました。



写真3. 滝上 事務局長による説明の様子

（3）合格体験発表

1) 伊藤 啓太 氏（奥山ボーリング株式会社）

伊藤氏は、応用理学部門（地質）で第二次試験に合格されました。今回は、受験の動機、これまでの受験記録、試験対策などをお話しいただきました。

伊藤氏は入社7年目の2024年度、第二次試験を一度目の受験で合格されています。また地質調査技士、地すべり防止工事士などの資格も第二次試験受験前に順次取得されています。受験対策として用いた方法が“ドクタージェネラル方式”の学習とのことです。この学習方法はNHKのテレビドラマであるドクターGから着想を得た学習方法で、自分だったらどうするか、何のデータが欲しいかなどを考え、わからない部分は担当者に聞いてディベートすることで経験不足を補う一つの方法とのことです。また、伊藤氏は短期間で合格するために意識した普段の行いをお話下さいました。時間がないなかで合格するために次の点を意識した普段の行いを実践されました。①他人の協力（人・仕事環境）、②自分を理解する（自己理解）、③適切で必要なことを正しくやる（情報収集、分析、高効率の学習）の3点です。他人の協力では家族の理解、サポートの大切さをお話されました（写真4）。



写真4. 伊藤 啓太 氏による発表の様子

2) 八重樫 絵理 氏

（パシフィックコンサルタンツ株式会社）

八重樫氏は、建設部門（道路）で第二次試験に合格されました。今回は、受験の動機、業務経験・立場と受験記録、試験対策、今後の抱負などをお話しいただきました。

八重樫氏は、ご自身の経験から、①なぜ技術士になりたいのか（受験動機）、②業務への取り組み姿勢（業務経験・立場と受験記録）、③試験対策、の3点が合格をつかむために重要であると考え、それぞれの取組を実践されて第二次試験に合格されました。

特に、“なぜ技術士になりたいのか”という受験動機は苦しいときの支えになったとのことでした。

また、業務への取組姿勢として、技術士として求められる資質能力（コンピテンシー）を意識して取り組むことの重要性をお話しいただきました（写真5）。



写真5. 八重樫 絵理 氏による発表の様子

(4) 記念講演

倫理研究委員会の佐々木源副委員長より「技術者倫理のいま」と題した講演をいただきました。

2023年4月改正の新たな技術士倫理要領について改正の背景と理由、ポイントについてご説明いただきました。また、ご自身が参加されているSGEEの会による活動状況の紹介と、最近の事故や不正などの事例をご紹介いただきました（写真6）。

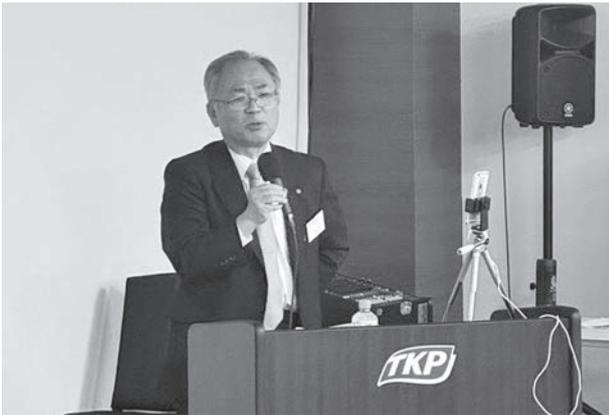


写真6. 佐々木 源 副委員長の講演の様子

(5) 参加者からの質問等

参加者からは、合格者2名による合格体験発表、佐々木副委員長の記念講演それぞれに質問があり、活発な議論がなされ、大いに盛り上がりました（写真7）。



写真7. 参加者からの質問・回答の様子

(6) 交流会

交流会は、TKPガーデンシティ PREMIUM仙台西口より徒歩約10分の場所にある「伊達なおもてなしDUCCA仙台駅前店」にて開催されました。参加者は、第一次試験合格者3名、第二次試験合格者8名を含む総勢60名と、盛況な会となりました。

開会にあたり、八木澤副本部長よりご挨拶と乾杯のご発声をいただき、和やかな雰囲気の中で交流が始まりました。

歓談の後には、今年度の試験に合格された皆様から自己紹介をしていただき、その後、技術士会に対するご質問をいただく時間を設けることで、参加者同士の理解と親睦をより深めることができました。

また、若手技術士が主体となって活動を行っている4つの委員会および1つの部会、すなわち「青年技術士交流委員会」「男女共同参画推進委員会」「次世代インフラ（旧：ITS）研究委員会」「技術情報部会」、そして本日記念講演を担当していただいた「倫理研究委員会」より、それぞれの活動紹介と新たな参加者への勧誘が行われ、今後の活動への関心と期待が高まる場面も見られました。

本交流会を通じて、合格者をはじめとする多くの技術士の皆様にとって、実りある出会いや情報共有の機会となったことと思います（写真8）。



写真8. 交流会の様子

4. おわりに

本年度の合格者祝賀研修会には、第一次試験合格者12名、第二次試験合格者14名に参加していただきました。第一次試験合格者の参加も多く、伊藤氏、八重樫氏のお二方の合格体験は、第二次試験合格へ向けた良い刺激になったと思います。技術士会の説明や参加された会員との交流から、技術士会の活動を知っていただく良い機会となったことを期待します。本会をきっかけにより多くの合格者の本会への入会に繋がれば幸いです。

(CPD委員会 菊地 記)

委員会・部会活動報告

CPD委員会

2024年度後期活動報告

1. 活動方針

東北本部内のCPD活動、関係学協会とのCPD関連情報の提供・交換等を通じ、東北各県に在住する全ての技術士のCPD活動を支援するとともに、CPD活動の啓蒙・普及を行う。

- (1) CPD活動の総合調整
(主催者、開催地、時期、研修テーマ等)
- (2) CPD活動の企画・運営
- (3) CPD活動の啓蒙・普及
- (4) CPD実施結果(課題・予算・参加人数等)の把握・管理
- (5) 本部CPD委員会との連絡・調整

2. 活動報告

- (1) 北東3地域本部技術士交流研修会の支援
日時：2024年11月1日(金)
場所：ホテルモントレ仙台
- (2) 安全文化出版記念講演会の支援
日時：2024年11月8日(金)
場所：TKPガーデンシティ PREMIUM仙台西口
講師：杉本 泰治氏



写真1. 書籍「安全文化」

- (3) CPD委員会開催
日時：2024年11月13日(水)
場所：東北本部事務局

- (4) CPD委員会開催
日時：2025年1月29日(水)
場所：宮城県土地改良会館
※2月5日に開催される農業部会第3回研修会におけるWeb配信テスト
- (5) 農業部会第3回研修会におけるWeb配信の支援
日時：2025年2月5日(水)
場所：宮城県土地改良会館
- (6) 技術士第一次・第二次試験合格者祝賀研修会・交流会の企画・実施
日時：2025年4月25日(金)
場所：TKPガーデンシティ PREMIUM仙台西口
合格者体験発表
伊藤 啓太氏
(奥山ボーリング(株))
八重樫 絵理氏
(パシフィックコンサルタンツ(株))
記念講演
佐々木 源氏
(倫理研究委員会(SGEEの会)副委員長)
演題：技術者倫理のいま

3. おわりに

CPD委員会は、全国大会・産学官セミナー・北東3地域本部技術士交流研修会等のCPD行事の企画・実施及びCPD推進等の活動を担当しているが、まだ実施途上のところもある。

また、昨今導入事例が多くなっているWeb配信については、まだ不慣れな部会・委員会もあり、導入にあたっての支援(お手伝い)を行なっている。

今後は東北本部内の各部会・委員会との連携をさらに強化するとともに、他団体との連携を強めるべく活動の領域を広げていきたい。

(CPD委員会委員長 名倉 記)

委員会・部会活動報告**青年技術士交流委員会****2024 年度後期活動報告**

青年技術士交流委員会の取り組みについて

1. はじめに

本稿では、青年技術士交流委員会における直近の取り組みや今後の見通しについて記させていただきます。トピックは以下の 3 点です。

- 1 新しいイベントの創出
- 2 東北本部イベントでの配信業務
- 3 全国的なイベントへの参加

2. 新しいイベントの創出

当委員会では、定例の委員会活動に加え、出前授業を中心としたイベントを企画し実施して参りました。本年度は、さらなる充実を図りたいと考えます。

昨年度までは、秋田高専や日本大学での出前授業を実施してきましたが、これに加え、(私の母校である)岩手大学や、(委員のご子息が通う)学生・中学生への出前授業を計画したいと考えています。

当委員会の活動は技術士を広く知っていただくことを主な目的としており、将来的には、「技術士は技術者ならぜひ目指したい資格」となることを期待し繰り返し実施計画するものです。まずは、委員の人脈をつてに、ネットワークを広げていきたいと考えております。

スクーリング形式のものだけではなく、ゼミの時間を利用したグループワーク、パネルディスカッションなど双方向性に富んだ多様な手法を取り入れたいと考えます。IPD (初期専門能力開発) 活動の一環となれば幸いです (写真 1)。



写真 1. 出前授業の様子
(グループワークに内田委員が参加)

3. 東北本部イベントでの配信業務フォロー

当委員会では、これまでも東北本部内の CPD イベントがある際には、会場準備や配信関係での協力を実施して参りました。

この中でも、オンライン配信する業務については強化を図って参りたいと考えています。

その一環として、4月11日にはオンライン配信の勉強会を東北本部事務局で実施しました。勉強会には前 ITS 研究委員会の武田委員長のご尽力を賜りました (写真 2)。

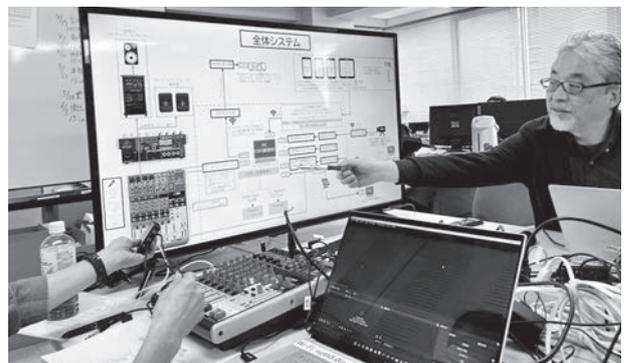


写真 2. 配信勉強会の様子
(武田委員長より配信についてご講義)

近年の東北本部内でのオンライン配信ニーズの高まりにより、技術士会予算にて配信に必要な機材が揃いつつあります。機材には、マイク類、カメラ類を始め、本格的なミキサーや無線通信環境を構築するためのルーターなどが含まれます。

カメラ類には、従来の固定式のものだけでなく、スマートフォンを利用したモバイルカメラ（ドroidカメラと呼ぶとのこと）を用いた撮影により、話者の臨場感をより良く伝えることができます。特に講演終了後の質疑応答の場などで有効です。

これらの多様な画像は、配信の画面構成に必要なソフト（OBS）により適宜画面構成を整え、配信用画像と会場用画像の2種類を同時に構築することができます。

このような、複雑な配信業務を外部委託した際には、やはりそれなりの費用が必要であるため、委員会の内製にて実行できることは、価値があると考えます。限られた予算内でのイベント実行の際には有効な手段の一つです。

私達準備するスタッフも、本来準備がなくとも聴講を予定しているメンバーが多く、イベント会場に「2時間」早く来れば準備ができるため、協力は惜しみません。

予算が有効活用されることで、他の面でのサービス向上が図られることも期待しつつ、イベントの準備関係はお任せいただければと考えています。なお、若手に限らず有志を常に集っていますので、ご協力いただける方は、ぜひご連絡いただければ幸いです。

4. 全国的なイベントへの参加

当委員会は、日本技術士会の各地域本部との繋がりがあります。本年度もさらにこの繋がりを高めてまいりたいと考えています。

全国的なイベントの実施例として、2024年12月14日に「志向倫理とは何か」と題した講演会をオンラインで実施しました。本イベントは各地域本部の委員長の協力のもと実施したもので、各地域本

部にはサテライト会場を設け、それらをオンラインで統合することで実施されました。講師は、第50回技術士全国大会の第一分科会で好評だった、北海道大学大学院文学研究院教授蔵田 伸雄氏をお招きし、講義をいただきました。質疑応答などは各地域本部への投げかけとしたことで、各サテライトでの議論を経たものが出てきたことから、非常にクオリティの高いものが出揃っていたと感じました。当東北本部ではサテライト会場を気仙沼の宿泊施設に設け、囲炉裏を囲みながら参加をしました（写真3）。



写真3. 各サテライトの様子
（星印の缶がそっと映り込むのはご愛敬）

参加人数は少なかったのですが、今後につながる良い取り組みであると考え、今年度も企画したいと考えております。

6月頃に開催される青年技術士拡大委員会、全国大会におけるリアルイベントのほかに、オンラインでの全国的なイベント構築に寄与できればと考えています。

5. おわりに

当委員会では常にメンバーを募集しております。皆さんと楽しい企画を実施できればと思います。ご興味ある方はお気軽にお問い合わせください。

takahashi.shusuke.c86@yurtec.co.jp

（青年技術士交流委員会委員長 高橋 記）

委員会・部会活動報告

防災委員会

2024年度後期活動報告

1. はじめに

2024年度後期の防災委員会は、主に防災委員会の会議開催や防災支援委員会、防災・減災連絡会議への参加、2025年度活動方針の検討、東日本大震災復興10年事業の企画や宮城県災害復興支援士業連絡会等の活動に取り組んできました。以下に活動内容等について報告します。

2. 防災委員会（東北本部）会議開催

- 第6回委員会開催：2025年1月17日（金）
 - ・ SAPD東北本部版について
 - ・ 東日本大震災10年事業2025について
 - ・ 2025年度活動方針について

3. 防災支援委員会（統括本部）会議参加

- 10月防災支援委員会：2024年10月17日（木）
 - ・ 能登半島地震災害復興支援プラットフォーム
 - ・ 2025年度事業計画・予算案
 - ・ 震災対策技術展、イベントツールの集約・整理他
- 12月防災支援委員会：2024年12月12日（木）
 - ・ 震災対策技術展（2025.2）の出展内容について
 - ・ イベントツール購入等について 他
- 1月防災支援委員会：2025年1月9日（木）
 - ・ 震災対策技術展（2025.2）の出展内容について
 - ・ 防災CPD企画について他
- 2月防災支援委員会：2025年2月13日（木）
 - ・ 第18回復興まちづくりシンポジウムの実行委員
 - ・ 六本木エネルギーサービス視察への参加について
 - ・ こども霞が関見学デーについて
 - ・ イベント素材の購入等について他
- 3月防災支援委員会：2025年3月13日（木）
 - ・ 災害復興まちづくり支援機構～能登半島被災地相談会について

- ・ こども霞が関見学デーについて
- ・ 防災CPD企画の準備
- ・ 2025年7月以降のイベント・会議の準備他

4. 第3回防災・減災連絡会会議参加

- ・ 防災支援委員会SAPDの取り組みについて
- ・ 各本部の大規模自然災害発生時対応について
- ・ 災害時支援活動計画（SAPD）の検討状況について

5. 士業連絡会活動

- 令和6年度理事会参加：2025年2月27日（木）
 - ・ 勉強会「違いに寄り添い、違いを生かす災害ダイバシティ・マネジメント」
- 金子 三佳子 氏
 （行政書士、アイリス行政書士、
 災害復興まちづくり推進機構事務局）

6. 東日本大震災復興10年事業2025シンポジウム

- ・ テーマ（案）：「行動する防災」を考える
 - ・ 開催日：2025年9月25日（木）PM
 - ・ 会場：フォレスト仙台第1フォレストホール
- ※ Web併用

7. おわりに

震災復興10年目の2021年を節目に、2021年から2025年までの5か年間、継続して実施している東日本大震災復興10年事業は、2025シンポジウムにて最終年となります。

講演とパネルディスカッションにより防災活動の推進や仙台防災枠組への参加、防災教育について議論を行う予定です。

詳細な内容については、改めてご案内いたしますが、みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

（防災委員会委員長 糸井 記）

委員会・部会活動報告

倫理研究委員会 SGEEの会

2024年度後期活動報告

技術者倫理のいま ～ 2024年度後半を振り返って～

1. 倫理研究委員会の体制

倫理研究委員会SGEE (Study Group, Engineering Ethics) は、毎月エルパーク仙台 (仙台三越定禅寺通館5F) を会場とした研修会が基本的な活動である。研修日時は毎月1回、木曜日、14:00～17:00の開催を原則としている。

現在のメンバーは宮城県支部及び山形県支部共催で技術士11名 (末岡、佐々木、荒木、相澤、大岩、大森、加納、田村、田中、名倉、石川の各氏) である。進め方は毎回倫理に関するテーマについて、新聞や著作物等から会員が発表し、会員同士で議論を重ね本質に迫る手法を採っている。現在、オンラインによるWeb参加も取り入れている。今後は東北全体に繋げての研修会活動を検討している。

2. 2024年度SGEEの会活動状況

技術者倫理研究会例会に加え、対外的には技術士全国大会、東北学院大学等での教育、山形県支部主催倫理セミナー、日本工学会、電気工学会の倫理講演会、東北本部記念講演会に参加している。以下に実施状況について報告する。

2024年度研修会の活動状況及びテーマ (後期)

第4回10月17日 (木)

「AIスキル学習」「人口減少下における豪雨対策」「AI開発競争」「公正取引委員会のAI市場実態調査」「JR貨物不正」「兵庫県の公益通報」

第5回11月13日 (水)

「原子力災害対策」「公益通報」「女川原発再稼働」「大阪地検元検事暴行裁判」「JR貨物事業改善命令」「JR不採算路線の廃線問題」

第6回12月12日 (木)

「ひもとく公益通報」「天知る、地知る、我知る、汝知る」「公益通報者への不利益処分」「野村証券役員10人報酬返上」「カナダ潤す「未来の宝」」「日本工学会第20回シンポジウム エシカル消費と技術者倫理協議会メモ」「安全文化出版記念講演資料」

第7回1月9日 (木)

「公益通報者保護法、通報者・事業者」「内部告発ケーススタディ」「羽田空港衝突事故運輸安全委報告」「衝突事故Gemini回答」「原子力を動かす覚悟、日本原燃・日本原子力発電」「産業技術総合研究所系大手20社 量子・AI成長後押し」

第8回2月12日 (水)

「ジッパー富谷市と泉中央を結ぶ新交通システム」「中国系AIディープシーク揺らぐ米国製優位」「フジ謝罪人権の認識不足」「東京女子大学不交付に」「電通に罰金3億円」「ボーイング再建壁は米国第一」

第9回3月12日 (水)

「3.6東北新幹線の連結外れ」「公益通報制度改正案」「安全文化」(東北本部編) 学習会読書ノート1 (1章～4章以降3回)「会員提供読書感想メモ」

第10回4月10日 (木)

「AI時代」「高速道路ETCシステム障害」「高速道ETC障害」「インフラ老朽化1」「インフラ老朽化2」「ETCシステム」「システム複雑化弱点」「フジ人権侵害」「安全文化読書ノート2」5章～7章

以後 第11回 5月8日 (木) 第12回 6月12日 (木) 2025年度第1回 7月18日 (金) 予定

なお、当該研修のCPD登録推進のため「受講証」を2024年度から毎回発行している。



写真1. SGEEの会研修の様子

3. 2024 年度他団体との連携活動

(1) 技術者倫理研究会への参加

技術士会統括本部登録「技術者倫理研究会」の講演会に参加し情報交換を行っている。参加費は有料だが、東北本部会員の参加費は当委員会で負担。申し込みは上記研究会HPより各自で実施。参加したテーマと講師名を記す。

第 115 回例会 1 月 21 日 (火)

「幸福な技術者を目指した技術者倫理の実践」
講師：袴谷 達 (電気電子/上下水道/総合技術)

第 116 回例会 3 月 11 日 (火)

「プロトタイプ 技術者倫理の学びカタ」
講師：川本 明人 (金属)

第 117 回例会 5 月 13 日 (火)

「シルバー職の技術者倫理 一苦難を乗り越えて」
講師：西岡 朝明 (化学)

(2) 一般社団法人電気学会倫理研修会への参加

学会内で開催されている倫理研修会に 2 名が参加し情報交換を行っている。担当：大森、名倉。

4. 東北地域での倫理教育に貢献

(1) 東北学院大学での倫理教育

学生に 10 月から半年間 JABEE 教育の一環で、技術者倫理に関して会員が授業を行っている。担当：田中。

(2) 山形県支部技術者倫理ワークショップ

1 月 24 日 (金) に山形テルサにて開催。参加人数 12 名 (山形県支部会員 11 名、当委員会委員長 末岡 1 名)

テーマ「和歌山県トンネル工事」施工不良の考察。
発注者 [県] と受託者 [建設会社] の対応事例。班毎に取りまとめ全体討議。担当：大岩、田村。

(3) 令和技術者倫理講演 (農業部会研修会講義)

2 月 5 日 (水) 「公益通報者保護法について」(内部通報・告発) 「公務員倫理」等をテーマに講演。担当：名倉。

(4) 令和 6 年度東北本部技術士第一次・第二次試験合格者祝賀研修会

4 月 25 日 (金) 当委員会副委員長佐々木が記念講演。テーマは「技術者倫理のいま」。

「技術者の倫理」とは何か、不祥事はなぜ起こったか、未然に防止できなかったか等フリートーク。「新幹線連結不良」「和歌山県トンネル施工不良」「公益通報者保護法 内部通報」「中国系 AI ディープシーク」「フジテレビ謝罪会見」等例示。

(5) その他

要請があれば企業講演も行う。担当：各委員。

5. 東北本部 10 年ビジョン

創立 50 周年を記念し今後 10 年間の「4 つのテーマ」(1) 会員サービスの向上 (2) 関係組織との連携強化 (3) 技術士の知名度向上 (4) 安全文化の浸透と恒常化 (2023 年 5 月 30 日制定) を掲げている。

…国際的な見識に基づく安全文化を享受し、技術者倫理の醸成を図っていく… (7 月本部長挨拶)

今後これらの課題に対処するため技術士が技術者倫理や社会的な倫理に関心を持ち、積極的に取り組み、倫理観をもって行動し、社会に発信することが重要と考える。当会では「安全文化」(2024 年 11 月東北本部編)「読書ノート」を調製し研修を開始している。

6. おわりに

能登半島地震災害復旧等困難な事態が連続している。人口減少、インフラの老朽化、衆院選挙後の少数与党、企業献金を巡る予算審議混迷、地方自治体パワハラ、大船渡・岡山・愛媛での山林火災の頻発等不安な状況下にある。企業では、点検データ改ざん、車両運行停止、報道姿勢等公益通報の対応を含めガバナンスの欠如が露呈。

世界では AI 普及と競争、地球温暖化、ウクライナやガザでの戦争、食料・エネルギー安全保障、米国新大統領就任後の極端な関税措置、ミャンマー大地震等予測不能・不確実性の時代の再来。

東北地方は大震災後 14 年を経て復興の進展とともに原発は再稼働。同時に IT 産業、インバウンド、再生エネルギー、住みやすい地域のあり方へと次の段階に進んで来た感がある。

我々技術士はこうした複雑な時代にも的確に対処できる倫理観を持った技術士像を探求していきたい。課題に際し、二者択一の局面で、有力な判断手法は倫理で身につけた考え方だと思う。女性会員や新会員の入会も増えた。幅広い部門の技術士による自由な議論を交えた研究・研修を今後も実施していきたい。研修会後のざっくばらんな意見交換の場も再開している。当会への気軽な参加を願っている。

(倫理研究委員会委員長 末岡、副委員長 佐々木 記)

委員会・部会活動報告

次世代インフラ研究委員会

2024年度後期活動報告

～ 委員会名が「ITS研究委員会」から「次世代インフラ研究委員会」に変わりました～

1. 活動内容

2024年度後期活動として、10月11日に第2回定例会と第2回オンラインセミナー、2025年1月15日に第3回定例会と見学会を実施しました。

2. 委員会名称の変更について

本委員会は、2006年に建設部会有志により「ITS研究会」として設立されました。その後、「ITS研究委員会」として承認され、今日まで活動を継続しています。

今回の名称変更は、近年の自動運転技術をはじめとする新たな技術要素の台頭を踏まえ、交通分野における研究開発が従来のITSの枠組みを超え、より広範な視点からの取り組みを必要としている現状に対応するためのものです。

委員会名に含まれていた「ITS (Intelligent Transport Systems: 高度道路交通システム)」という言葉は、必ずしも社会全体に広く認知されているとは言えず、外部の方々からは具体的な活動内容がイメージしにくいという課題がありました。

このような背景から、今後の委員会の活動内容と名称との整合性を図り、会員の皆様にとってより活動意義を感じていただけるよう、このたび2025年7月1日より名称を「次世代インフラ研究委員会」に変更いたしました。

今後は、これまで培ってきた知識や経験を活かし、新たな名称のもと、より一層活発な活動を展開してまいります。

3. 第2回オンラインセミナーの概要

日時：2024年10月11日(金) 14:30～16:30
会場：せんだいメディアテーク 7階会議室
演題：改正道路法施行後のパーソナルモビリティの現状と課題

講師：鈴木 美緒 准教授

東海大学 建築都市学部土木工学科

参加者：会場27名、オンライン17名 計44名

1) 急増する電動キックボードの手軽さの裏に潜む危険と課題

2023年7月、改正道路交通法施行により特定小型原付が登場し、免許不要の手軽な移動手段として注目される電動キックボード。しかし、その利便性の裏側で、事故の急増と交通ルールの遵守という課題が顕在化している。



写真1. 質疑応答時の配信画面

2) 制度導入の背景と現状

メディアによる誤解を招く報道や販売業者による不適切な情報提供、基準を満たさない車両の流通などが利用者のルール理解不足を招き、違反行為や事故につながっている。特に、歩道通行が可能な特例特定小型原付の速度制限に関する認識不足は深刻である。

3) 相次ぐ事故と違反

ルール軽視と安全意識の欠如がある。制度面も複雑化しており、電動バイクとの区別や、自転車との位置づけが曖昧な車種も登場。保険加入の義務や駐輪場所に関するルールも周知徹底されておらず、事故発生時の対応や放置車両の問題も懸念される。

4) 世界の潮流

海外では、安全重視の規制強化と利用縮小の動きがみられる。特に、電動キックボードの安全性に対する意識が高く、規制強化の動きが顕著である。

ロンドンやパリなどの都市では、事故やマナーの問題からレンタルサービスを禁止するなどの厳しい措置が取られている。速度制限やヘルメット着用義務、歩道通行の禁止は多くの国で共通する対策である。また、車両の種類や速度に応じて細分化された免許制度を導入している国もある。オランダのように、速度差を考慮して走行場所を制限する例も見られる。

5) 日本の課題と今後の展望

日本は、海外の規制強化の流れとは対照的に、比較的緩やかな制度で電動キックボードの普及を推進している。しかし、事故率の高さや違反行為の多さから、現行の制度設計の見直しは喫緊の課題である。

このため、速度に応じた車両区分や走行ルールの明確化、免許制度の導入、取り締まりの強化、駐輪ルールの整備など、安全性を確保するための多角的な対策が求められる。海外の失敗例を教訓に、安全で持続可能なパーソナルモビリティのあり方を早急に検討する必要がある。

4. 見学会の概要

日 時：2025年1月15日10:30～12:00

会 場：放射光施設「ナノテラス」

(東北大学青葉山キャンパス内)

参加者：37名(写真2)



写真2. 見学会の参加者

1) 目的

放射光施設「ナノテラス」の概要、施設・設備、利用制度、研究事例等について理解を深める。

2) ナノテラスの概要と役割

ナノテラスは、東北大学青葉山キャンパスに位置する最先端の放射光施設で、エネルギー、環境、医療など広範な分野で高輝度X線を用いた物質分析を行う。製品開発における革新に貢献しており、エコタイヤやシャンプー、医薬品、電気自動車など、身近な製品の開発にもX線分析が活用されている。世界に約50ヶ所、日本に10ヶ所ある放射光施設の一つであり、仙台駅からのアクセスも良好である。

3) X線生成の仕組みと施設の特徴

電子を光速近くまで加速し、蓄積リング内の特殊な磁石(アンジュレーター)で蛇行させることで高輝度X線を生成する。

ナノテラスは特に軟X線領域で世界最高クラスの輝度を誇り、高精度かつ高速な分析が可能である。硬X線領域でも高い性能を有し、多様な研究に対応できる。施設は、加速器、蓄積リング、アンジュレーター、ビームライン、実験ステーションで構成される。

4) 官民地域パートナーシップと利用制度

ナノテラスは、国、宮城県、仙台市、東北大学、東北経済連合会が連携して運営する官民地域パートナーシップ方式を採用している。

利用制度には、成果公開型の「共用利用」と、企業が機密保持可能な有償の「ポジション利用」がある。地域中小企業向けの利用支援策も整備されており、共同利用促進も図られている。

5) 研究事例と今後の展望

エコタイヤやシャンプーの開発、医療分野における免疫細胞の観察など、多岐にわたる研究事例がある。ポジション利用では多くの企業が最先端研究に活用している。今後の課題として、中小企業の更なる利用促進や研究成果の社会実装が挙げられる。

ナノテラスは、地域社会や産業界への貢献が期待される重要な研究基盤である。将来的にはビームラインを増設し、より多様な研究ニーズに対応する計画が進められている。

5. おわりに

委員会名称は変更となりましたが、会員の皆様には、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

今後とも、当委員会の活動にご期待ください。

(前ITS研究委員会委員長 武田 記)

委員会・部会活動報告

男女共同参画推進委員会

2024年度後期活動報告

～ コミュニケーションに関する意見交換会 ～

1. はじめに

男女共同参画推進委員会は、女性技術士の増加や男女共同参画推進に向けた諸行事を行うことにより、技術者や会員相互の連携を深めることを目的に活動している。委員会での現状の問題点について意見交換した結果、コミュニケーションギャップは各世代や男女間で問題意識が高く、さらには会社や家庭等あらゆる場で重要なものであることから、2024年度はコミュニケーションをテーマとしたワークショップを実施することとした(写真1・2)。

2. 実施概要

日 時：11月22日(金) 14:00～16:30
場 所：(株)復建技術コンサルタント 会議室
参加人数：13名
アドバイザー：石川 裕信 氏

東日本高速道路(株)東北支社
総合企画部総務課長

意見交換会を実施するにあたり、「オープンダイアログ」という手法を取り入れた。これは医療分野から始まった「対話実践」の技法で、1980年代にフィンランドで発祥したものである。WHOがグッドプラクティスと認めており、学校、職場、家族の中でも可能とされている。今回はテーマを「コミュニケーションに関する悩みや提案、過去の楽しかった体験」とし、3名/班となりグループワークを実践した。基本的な考え方は以下のとおりであり、話すことと聞くことを丁寧に分けることにより、自身の思考や感情を内省できる手法である(写真1)。

- ① 他者を尊重する(さえぎらずじっくり聞く)
- ② 結論を目指さない
- ③ 聞き手は話し手の傍らで感想を話す

3. 参加者の感想

- オープンダイアログ楽しかったです。傾聴スキル習得に向けて大変参考になりました。
- 他会社の方とお話をさせていただき、考え方や物の見方等、普段何気なくやっていること、新たな視点に気付かせていただいた。

- 話し手の話をじっくり聞くことの大切さがわかった気がしました。これからは会社や家庭でも実践していきたいと思いました(写真2)。



写真1. オープンダイアログ実施の様子



写真2. オープンダイアログ後の意見交換の様子

4. おわりに

男女共同参画においてコミュニケーションは必要不可欠なものであるが、悩み苦しんでいる方はとても多いと感じている。今回の意見交換会が少しでも解決のヒントとなれば幸いである。

(男女共同参画推進委員会委員長 渡辺 記)

委員会・部会活動報告

建設部会

2024年度後期活動報告

1. はじめに

建設部会は、幹事会を開催して2024年度の講演会・発表会の準備を行いました。

2. 第3回 幹事会

日 時：2024年11月12日（火）
場 所：大日本ダイヤコンサルタント（株）
東北支社 会議室+Web会議（併用）
参加者：12名
議 事：現場見学会（10月1日）の報告
出前授業（10月23日）の報告
講演会・発表会の計画について

3. 第4回 幹事会

日 時：2025年2月7日（金）
場 所：（株）復建技術コンサルタント会議室
参加者：8名
議 事：講演会・発表会の実施計画について
2025年度の活動計画について

4. 出前授業

秋田工業高等専門学校説明会
共 催：青年技術士交流委員会
日 時：2024年10月23日（水）
• 環境都市工学科4年生約40名が聴講した。
• 学生と交流する機会を得て、技術士の活動をアピールし、知名度の向上を図る事ができた。

5. 講演会・発表会

日 時：2025年2月7日（金）14:30
場 所：（株）復建技術コンサルタント
会議室
参加者：22名
• 講演内容
講演1「タイムラインから建設DXを考える」
加納 実氏（株式会社 三協技術 顧問）
(写真1)



写真1. 加納 実氏の講演の様子

講演2「PLATEAU人流ユースケース
（人流シミュレーション）」*オンライン
松田 克巳氏（（株）フォーラムエイト執行
役員システム営業マネージャ）
講演3「Minecraftと3D都市モデルを活用した
子ども向け防災教育コンテンツの開発」
小野 桂介氏（東北工業大学 工学部
都市マネジメント学科 講師）
(写真2)



写真2. 小野 桂介氏の講演の様子

6. おわりに

建設部会の活動に、皆様のご理解とご協力をいただき、感謝を申し上げます。

2025年度は、講演会・発表会と現場見学会を並行して計画していく予定です。宜しくお願い致します。

(建設部会部会長 向田 記)

委員会・部会活動報告

農業部会

2024年度後期活動報告

～ 幹事会及び研修会等の開催 ～

1. はじめに

農業部会の後期活動として、幹事会を2回、会員相互の交流を深めるための活動として、Web講習会を1回、研修会を1回開催しましたので、その内容について報告します。

2. 第3回幹事会及び第4回幹事会

日 時：2024年12月6日（金）

2025年3月5日（水）

場 所：宮酪会館 2階会議室

参加者：各6名、7名

- 議 事：・東北本部第4回幹事会報告について
 ・農業部会次期幹事候補の選定について
 ・第3回研修会の開催について
 ・2025年度年次報告会について



写真1. 第4回幹事会の様子

3.2 第3回研修会

東北本部農業部会、東北農業土木技術士会、農業農村工学会技術者継続教育機構の主催で開催しました（写真2）。

日 時：2025年2月5日（水）

場 所：宮城県土地改良会館5階大会議室

参加者：69名

講演1：技術者の倫理について

名倉 隆（東北本部CPD委員会委員長）

講演2：ため池の耐震性能照査（その2）について

石川 裕規氏（日本工営（株）札幌支店）

講演3：農業土木分野におけるプレキャストコン

クリート製品の活用について

鷺谷 秀隆氏（（株）北陽）



写真2. 第3回研修会の様子

3. 活動報告

3.1 本部農業部会Web講習会

日 時：2024年12月7日（土）

場 所：宮酪会館 2階会議室

参加者：3名

講演1：オガクスの代替となる新しい敷料の探索

石田 哲也氏

（東京大学未来ビジョン研究センター
特任教授）講演2：農業を用いた植物保護と新技術導入の
試み

安宅 雅氏

（バイエルクロップサイエンス（株）
開発本部殺虫剤開発マネジャー）

4. おわりに

2024年度の活動方針に則り、後期の活動も無事に終わることができました。第3回研修会の開催では、初めてWebでの開催を試行的に行ったところ26名の参加者があり、対面での参加者と合わせ69名の参加となって、通常の研修会より多くの会員の参加をいただきました。このことを踏まえ、今後は、Webでの研修会の開催機会を増やし、会員サービスの向上に努めてまいりたいと考えています。皆様の積極的な参加をお待ちしております。

（農業部会部会長 櫻井 記）

委員会・部会活動報告

衛生工学・環境・上下水道部会

福島県支部との合同見学会

～ 再生可能エネルギー先駆けの地・福島を訪ね2 ～

1. はじめに

2024年度の見学会は、福島県支部との合同開催として実現しました。小沼支部長をはじめ福島県支部の皆さま方には、計画立案から訪問先との交渉など大変お世話になり、改めて感謝申し上げます。

2. 日時・場所・参加者

日時 2024年11月29日(金)9:00～20:00

場所 ①福島県環境創造センター（三春町）
②県中浄化センター（郡山市）
③新協地水株式会社（郡山市）
④交流会（郡山市）

参加者：

【福島県支部 10名】

小沼（建設・応用理学）、安藤（上下水道）、
鶴原（建設）、斎藤（建設）、小室（建設）、
小野（建設）、佐々木（金属）、神永（建設）、
吉野（上下水道）、福地（上下水道）

【衛生工学・環境・上下水道部会 9名】

乗田（環境/青森）、金森（上下水道/秋田）、
利部（環境/岩手）、大岩（環境/山形）、
滝上（上下水道/宮城）、佐藤（上下水道/宮城）、
安藤（衛生工学/宮城）、菅原（上下水道/宮城）、
河村（上下水道/宮城）

3. 内容

① 福島県環境創造センター

まず、三春町にある福島県環境創造センターを訪れました。2011年3月の東日本大震災と福島第一原子力発電所の原子力災害によって、福島は大きな被害を受けました。当施設は「変わってしまった暮らしと環境を決してそのままにせず、いつまでも安心して暮らせる環境を創っていくこと」を使命として2016年に作られました。主にモニタリング、調査・研究、情報収集・発信、教育・研修・交流の4つのプロジェクトとして取り組まれていました（ホームページより）。私達部会メンバーは、放射線調査課の柴田課長に案内され、1階の機器分析室やγ線、α線、β線の検出装置等の説明を受けました。



写真1. 福島県環境創造センターの様子

2階の水質分析室や生物試験室では、環境調査課の吉田課長に案内され説明を受けました（写真1）。またテレメータ室では福島県内の19箇所の大気測定の大項目が表示されており、リアルタイムの大気の状態を見ることができました。別棟のコミュニティ福島では「復興へ向かうふくしまの歩みを振り返る」「現在の課題と未来のビジョンをみんなで共有する」「放射線についての理解を深め、ふくしまの復興の今を知る」「環境問題を身近なものとして考え、未来のためにできることを知る」をテーマに4エリアで大画面や立体的な模型を使った展示がなされました。あの日から現在までの「ふくしま」の姿が描かれており《ここに来なければわからない事》に触れ事故の重大さを考えさせられました。

約13mの全球型ドームシアターでは360°全方向での大迫力の映像と音響で、ふくしまの自然環境と人の暮らしが描かれ、空中を飛んでいるような気分でした。最後に「気候変動を始めとする様々な環境問題やSDGsなど、地球を取り巻く現状に目を向け一緒に未来を考えてみましょう」とリアルに触れるデジタル地球儀を後にして、当施設に別れを告げました（写真2）。



写真2. 見学会集合写真

② 県中浄化センター

三春町の「三春の里田園生活館」で昼食をとった後、郡山市内の阿武隈川流域下水道施設の県中浄化センターを訪れました。始めに会議室で福島県下水道公社の佐久間次長から処理施設の概要と、処理区域にある関連市町村等の説明を受けました。当施設は、1988年に標準活性汚泥法の処理施設として供用開始しました。現在約10万 m^3 /日の汚水を処理しており、74 t/日の脱水汚泥を搬出し、ほぼ100%コンポストやコンクリートブロックなどに再利用されているとの事でした。

会議室での説明の後、再び佐久間次長に案内され、処理施設の最初沈殿池から反応タンク、最終沈殿池まで槽上で説明を受けながら見学しました（写真3）。



写真3. 処理施設見学の様子

水の処理状況は大変すばらしく、透明な処理水が午後の日差しにきらきらと輝いていました。この日は冷たい強い風が吹いていましたが、参加者は説明に熱心に耳を傾け、質疑応答等で寒さも忘れていたようでした。

③ 新協地水株式会社

次に郡山市西部第一工業団地内にある「土と水総合コンサルタント」新協地水株式会社の本社・再生可能エネルギー研究開発施設を訪れました。2020年11月に省エネ技術+創エネ技術によりエネルギー消費量を103%削減するZEBを実現しており、倉庫棟で見学の概要と施設の説明を受けました（写真4）。（ZEB = NetZero Energy Building）



写真4. 概要と施設説明の様子

担当の添田氏に案内された省エネ技術（アクティブ技術）の地中熱源ヒートポンプシステムは興味深いものでした。地下10m以下の温度が年間を通じて15～16 $^{\circ}\text{C}$ であることを利用して、地下100mに、6本のダブルユーチューブが埋設されており、夏は外気より冷たい地中に排熱し、冬は外気より暖かい地中から採熱するという仕組みです。そのほか創エネ技術としての太陽光発電パネルや蓄電池、省エネ技術（パッシブ技術）としてのCLT材（直交集成材）や断熱材やLow-E複層ガラス、LED照明などが採用されている事務所などを見学し、研究開発施設を後にしました。

④ 交流会

夕方から郡山市内で交流会が開かれました。福島県支部からは他の部門の方が多く参加され、新たな視点からの意見や感想が多く述べられました。中締めでは「アイラブ下水道！アイラブ上水！アイラブ水！？」のシュプレヒコールがにぎやかに飛び交い、楽しいひと時を過ごしました。

4. おわりに

今回の研修会は東北6県から会員が集まり無事終了しました。来年度は岩手県を予定しています。

（衛生工学・環境・上下水道部会 河村 記）

委員会・部会活動報告

電気電子部会

2024 年度後期活動報告

1. はじめに

電気電子部会の2024年度後期の活動として、講演会、見学会、幹事会を開催しました。その内容について報告します。

2. 第4回講演会 (Web講演会)

日 時：2024年12月11日 (水)

場 所：日本技術士会 東北本部

参加者：3名 (統括本部電気電子部会主催によるWeb講演会として実施)

演 題：技術者倫理で仕事を楽しく

講 師：大来 雄二氏

(金沢工業大学 科学技術応用倫理研究所 客員教授、
NPO法人 次世代エンジニアリング・イニシアチブ 理事長)

内 容：仕事は楽しくできるのが一番。ここで考えるべきは、どのようなときに仕事は楽しく、どのようなときに楽しくないか。電気学会技術者倫理事例集第3集「科学者・技術者として活躍しよう」を入り口にして、仕事の楽しさについての説明があった。

3. 第5回講演会 (Web講演会)

日 時：2025年2月13日 (木)

場 所：日本技術士会 東北本部

参加者：3名 (統括本部電気電子部会主催によるWeb講演会として実施)

演 題：大規模停電は防げるか？ - 停電に備えて、我々は何をすべきか -

講 師：加藤 政一氏

(東京電機大学 工学部 教授)

内 容：電気は現代社会に必要不可欠なものであり、電気事業者は停電を防ぐべく、様々な対策をとってきた。しかしながら、過去、大規模な停電は発生している。本講演では、これまで

の大規模停電事故を概観し、どのような対策が取られてきたかについて説明があった。さらに、将来起こりうる大規模停電に対する備えについての解説があった。

4. 第1回見学会 福島県立テクノアカデミー浜再生可能エネルギー設備見学会

日 時：2025年2月18日 (火)

場 所：福島県南相馬市

主 催：電気設備学会東北支部

後 援：東北本部電気電子部会計装士会

参加者：23名 (電気電子部会参加者8名)

(写真1)



写真1. 見学会集合写真

5. 第2回幹事会

日 時：2025年3月27日 (木)

場 所：書面にて開催

参加者：電気電子部会幹事13名

内 容：2024年度活動報告、2025年度活動計画

6. おわりに

2025年度も昨年度に引き続き、講演会、見学会を計画していきますので、ご参加のほどよろしくお願いたします。

(電気電子部会 小嶋 記)

委員会・部会活動報告

応用理学部会

2024年度後期活動報告

1. はじめに

2024年度後期活動報告として、第3回技術サロン、第4回技術サロンについて報告します。

2. 活動報告

(1) 第3回技術サロン

日時：2024年10月18日18:00～20:30

会場：仙台市戦災復興記念館（第4会議室）

参加者：6名（講師2名含む）

①演題：TL強度から熱源位置をインバージョン解析する方法

講師：布原 啓史氏（布原地質調査事務所）

②演題：地歴不明の空洞確認へのアプローチ

講師：二木 茂樹氏

（株）復建技術コンサルタント

布原氏からは、東北日本の地熱分布の特徴とTL（サーモルミネッセンス）強度分析から熱源位置を想定する方法などのお話をいただきました。熱源位置のインバージョン解析は、立ち入ることが困難な山中に入り、数年をかけて分析に供する資料を採取したことが精度の高い結果を得ることができ、今回の結果へと繋がったとのことでした。二木氏からは防空壕、亜炭鉱跡地など空洞調査3事例を紹介していただきました。深度が比較的深く、レーダー探査が難しい地域での電気探査、表面波探査の適用などのお話をいただきました。

(2) 第4回技術サロン

日時：2024年12月6日18:00～20:30

会場：日立システムズホール仙台（研修室2）

参加者：14名（講師2名含む）

①演題：防災気象情報の利活用

講師：鈴木 達也氏

（仙台管区気象台気象防災情報調整官）

②演題：東北学院大学工学部環境建設工学科
三戸部研究室 卒業研究発表

講師：東北学院大学三戸部研究室 学部4年
（加藤 翔太氏、小松 翼氏、
佐々木 船斗氏、志田 晃一氏）

鈴木氏のご講演では、地球温暖化や線状降水帯のしくみ、大雨災害の事例、気象庁の数値予測モデルや気象観測データの大切さ、地震・津波・火山などのお話をいただきました（写真1）。



写真1. 鈴木 講師の講演の様子

三戸部研究室からは、トレイルカメラ映像を用いた高頻度河口地形変化の解析（学部4年加藤 翔太氏）、避難行動に着目した津波防災ゲームの開発（学部4年小松 翼氏、佐々木 船斗氏）、数値シミュレーションを用いた洪水対策ゲームの開発（学部4年志田 晃一氏）の3編の発表をしていただきました（写真2）。国土交通省の高解像度映像を用いた地形解析や、防災ゲームによる防災教育ツールの開発など大変興味深いテーマでした。



写真2. 小松・佐々木 講師の講演の様子

3. おわりに

応用理学部会では、2025年度も各種CPD行事を企画しておりますので、ぜひご参加下さい。

（応用理学部会 菊地 記）

各県支部活動報告

青森県支部

2024年度後期活動報告

～ 現場見学会及び継続研鑽研修会報告 ～

1. はじめに

青森県支部の今年度の活動テーマである「安全文化」の理解を深めるために現場見学会及び継続研鑽研修会を開催したので、その結果について報告する。

2. 現場見学会の内容

日時：2024年10月29日(火) 10:00～12:00

場所：つがる富士見荘（鶴田町）及び施工現場

参加者：43名

講演概要：

I 演題：津軽富士見湖管理橋（通称：鶴の舞橋）
改修工事の概要及び施工について

講師：藤本 雄士氏（写真1）

（青森県西北地域県民局地域農林水産部
（つがる庁舎）水利防災課長）

荒関 理氏（写真2）

（齋勝建設株式会社 建築部次長）

II 演題：鶴の舞橋改修工事の発生木材を有効利用して創る「オンリーワン商品」について

講師：山内 将才氏（写真4）

（わにもっこ企業組合 代表理事）

III 視察：「津軽富士見湖管理橋（通称：鶴の舞橋）」

説明者：藤本 雄士氏、荒関 理氏

2.1 津軽富士見湖管理橋改修工事について

鶴の舞橋は、廻堰大溜池の管理橋及び親水施設として、1994年に県営つがる富士見地区水環境整備事業により整備された。鶴の舞橋は樹齢150年以上の青森県産ヒバを使用した全長300mの三連太鼓橋として「日本一長い木の橋」を誇っている。

鶴の舞橋は供用開始から30年近くが経過し、木材の老朽化による機能低下、安全性の確保が懸念されたことから、大規模な改修工事を実施することとなった。改修工事を実施するにあたり、鶴の舞橋の現状を把握するため、各部材の健全度評価を行った。評価にあたり外観調査のほか部材品質調査（伝播速度試験、穿孔抵抗試験）を行い、その結果、ほぼ全ての部材において腐朽等が確認され、速やかな補修対策が必要と判断した。ただし、橋脚については、天然ヒバの長尺物が入手困難なことや構造計算によ

り安全性が確認されたことから、既設利用を基本とし、断面欠損がある部分について部分交換とした。

改修計画の検討にあたっては、腐朽の程度や進行度合いが樹種や部材単位で大きく異なるため、供用後の維持管理を念頭とした部材毎の適切な長寿命化対策が重要となる。このため、維持管理が容易になるよう改修計画を検討する必要があり、有識者等で構成する技術検討委員会を組織し、委員からの意見を設計や施工に反映させながら実施している（現時点で10回開催）。検討委員会により、使用木材については、経済性の比較検討や維持管理面等から総合的に判断し、床版はスギ材、それ以外はヒバ材に決定した（写真3）。



写真1. 藤本 雄士氏



写真2. 荒関 理氏



写真3. 鶴の舞橋改修工事の様子

2.2 鶴の舞橋改修工事の発生木材を有効利用して創る「オンリーワン商品」について

わにもっこ企業組合（以下「わにもっこ」）は、日本三大美林の秋田杉の北限と青森ヒバの南限に位置する大鰐町早瀬野地区に1989年に設立され、豊富な種類の樹木から様々な家具や木工品などを手掛けている。「わにもっこ」の名前は、大鰐の「わに」と木工の「もっこ」から名付けられている。

わにもっこでは、家具を製作する際に発生する廃材を有効利用するために木工品を製作している。鶴の舞橋の改修で発生した廃材についても、鶴田町からの依頼により、箸（名称：鶴のマイ箸）や丸升を製作している（写真5）。このようにわにもっこでは、廃材から付加価値を高めるアップサイクル商品を手掛けている。



写真4. 山内 将才氏 写真5. 鶴のマイ箸製作

3. 継続研鑽研修会

日時：2024年11月9日(土) 13:30～16:50

場所：八戸工業大学・土木棟2階ITルーム

参加者：13名

講演概要：

I 演題：発酵食品製造における安全性

講師：本田 洋之氏（写真6）

（八戸工業大学 准教授）

II 演題：近年の豪雨災害と危険度予測

講師：外里 健太氏（写真8）

（八戸工業大学 助教）

3.1 発酵食品製造における安全性

漬物など我が国に数多く存在する発酵食品の中から、近郊である青森県十和田市の「ごど」、岩手県田野畑村の「ごどまめ」に着目した研究について紹介があった（写真7）。これらは、共に大豆を主原料にした地域に残る貴重な食文化を伝える発酵食品である。一方で、発酵食品は、作り方によって産膜酵母や大腸菌群を検出する場合がある。これらは感染症を引き起こす可能性があるため、取り扱いには注意が必要である。



写真6. 本田 洋之氏 写真7. ごど(左)とごどまめ(右)

本田氏が民間企業や大学での経験を通して得た安全文化に関する知見は、整理・整頓・清掃・清潔・しつけのいわゆる5Sの重要性と、自身の失敗談から、生菌の技術的な難しさの組織内での共有、ダメなら引き返せる時点（ストップ判断）の事前明確化、品質リスクの部門全体での共有・検証の必要性が挙げられるとのことである。

3.2 近年の豪雨災害と危険度予測

近年、全国各地で記録的豪雨が発生している中、浸水や土砂災害などによる被害について発生事例を取り上げながら、身の安全を確保するために重要となる防災情報や数値シミュレーションを用いた予測技術について解説いただいた。

外里氏は、数値解析に基づく広域的な土砂災害リスク評価の研究に取り組んでおり、豪雨に起因する斜面崩壊の数値シミュレーション、力学的な斜面安定性解析結果の活用（図1）、土質パラメータにより解析結果が変化するという内容について紹介いただいた。

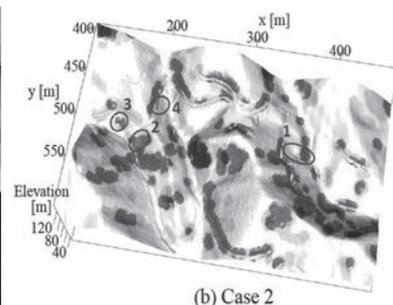


写真8. 外里 健太氏

図1. 斜面安定解析の例

4. おわりに

安全文化をテーマに現場研修会と継続研鑽研修会を行った。

現場研修会では、管理橋修繕工事を通して、入念な健全度評価と供用後の維持管理を念頭にした長寿命化対策が重要であると感じた。

継続研鑽研修会では、異なる分野の講演ではあったが、安全文化に向けて技術的に大切なことは共通の部分が多いと感じた。安全を最優先とする意識や価値観を醸成することが必要であり、それを組織的に共有することの重要性を認識した。さらに、これらを文化として後世に繋いでいく必要性を実感した。

（CPD委員 鈴木 記）

各県支部活動報告

岩手県支部

2024 年度後期活動報告

1. はじめに

今期は、当支部や当支部各研究会の活動が非常に活発化していた時期であり、講演会や現地見学会、研修等、紙面では伝えきれないほどの多様な活動を実施しました。そのため、一部にはなりますが以下に当支部の活動内容を報告します。

2. 2024 年度岩手県支部新春講演会

開催日：2025 年 1 月 25 日（土）

場 所：プラザおでって（盛岡市）

参加者：44 名（会場 40 名 Web 配信視聴 4 名）

講 師：森 一 欽（もり かずよし）氏

（釜石市文化スポーツ部文化振興課世界遺産室長兼同課主幹兼釜石市立鉄の歴史館館長）

演 題：シリーズ岩手を知る（第 32 回）

「明治日本の産業革命～釜石の軌跡～」

日本の産業革命は東洋初にして約半世紀という短期間で成し遂げられ、それを物語る遺産群が 2015 年に「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産に登録されました。2025 年はその 10 周年に当たることから、今回は世界遺産登録された釜石の製鉄業の軌跡を中心に御講演をいただきました。

森氏からは、約 4 億年前、赤道付近の大陸が分離し、長い年月をかけて海洋プレートと大陸プレートからこすり取られてできる「付加体」により南部北上山地ができた話から始まり、鉄原料の誕生、近代化以前の鉄の歴史、鉄産業近代化の歴史、明治日本産業革命遺産の紹介がありました。続いて近代化以前の砂鉄を原材料とした「たたら」製法では、当時、必要とされた大砲の製造に不向きであり、磁鉄鉱を原材料として、より高温で鉄を溶かす反射炉（洋式高炉）による製法が求められている中、盛岡出身の大島高任らが釜石で反射炉の建設に成功し、その後、日本各地に反射炉の建設が広まったことについて説明がありました。

最後の質疑応答では、参加者から観光客に関する質問があり、目標は年間 1 万人であることなど森氏からは丁寧な回答がありました。

3. 委員会・研究会活動

3.1 応用理学研究会野外見学会

開催日：2024 年 10 月 9 日（水）

場 所：岩手県盛岡市、雫石町他

参加者：26 名

案内者：越谷 信 氏

（岩手大学名誉教授 理学博士

岩手大学地域防災研究センター客員教授）

今年度も継続研鑽の一環として、雫石盆地周辺の層序と地質構造の見学を行いました。当日は秋晴れとは言えないまでも雨の降ることもなく、程良い見学会日和となりました。当見学会では例年、技術士同伴の下、技術士を目指す若手技術者の方々にも御参加をいただいております。今回は特に多くの若手技術者に御参加をいただき、20～70 代までの幅広い世代の技術者による見学会を実施できました（写真 1）。次の機会においても、より多くの技術者の方に御参加をいただくことで、世代間でのコミュニケーションを図りながら、応用理学の見学ができれば非常に有難いものと考えています。



写真 1. 幅広い世代の技術者による集合写真

最後に、事故なく無事に見学会を終えたことについて、御参加いただいた皆様方の御協力と御配慮に深く感謝申し上げます。

3.2 河川研究会現場研修

開催日：2024 年 10 月 11 日（金）

場 所：岩手県釜石市、大槌町

参加者：15 名

説明者：沿岸広域振興局土木部、釜石市職員

釜石大槌圏域流域治水プロジェクトの現地研修を実施しました。

- (1) 大松砂防堰堤改築（砂防施設等緊急改築事業）
- (2) 天神の沢砂防（大規模特定砂防事業）
- (3) 汐立雨水ポンプ場（写真2）
（雨水ポンプ施設建設事業）
- (4) 尾崎白浜の沢砂防堰堤
（砂防激甚災害対策特別緊急事業）
- (5) 大槌川大ヶ口災害復旧
（台風第19号で被災した箇所）



写真2. 汐立雨水ポンプ場の研修の様子

3.3 鉄道研究会現場研修会

開催日：2024年10月15日（火）

場 所：東北新幹線いわて沼宮内駅付近川原木トンネル及び五日市トンネル現場

参加者：3名

現場内での工事の実施状況確認と、工事現場での事業概要及び工事内容、及び各施設の仕上がり状況について、現場担当者の方から詳細な説明をいただきました。

3.4 鋼構造コンクリート・道路研究会合同現場研修

開催日：2024年10月28日（月）

場 所：一般国道282号

（仮称）佐比内トンネル築造工事

参加者：15名

説明者：盛岡広域振興局土木部

岩手土木センター職員他

岩手県（盛岡広域振興局土木部岩手土木センター）が八幡平市佐比内地内で進めている（仮称）佐比内トンネル築造工事の現場研修会を実施しました。

岩手県及び工事受注者の方から事業概要、工事の進捗状況等について説明をいただいた後、施工状況等を確認しました。トンネル計画区間の一部では自然由来のヒ素の含有が確認されていることから、対策工法の検討状況や、周辺の希少野生動植物への対応等の説明をいただきました。トンネル計画や地質の特徴、施工時の留意点等活発な意見交換が行われ、有意義な現場研修会となりました。

3.5 農業研究会現地研修会

開催日：2024年10月29日（火）

場 所：岩手県花巻市、北上市

参加者：19名

説明者：県南広域振興局農政部

北上農村整備センター

東北農政局和賀中央農林水利事業所他

会員の技術研鑽に資する活動の一環として、「農地整備事業（中山間のほ場整備工事）」、「農村地域防災減災事業（管水路工事）」、「和賀中央農業水利事業（幹線用水路工事）」（写真3）をテーマにした現地研修会を実施しました。



写真3. 幹線用水路内部の研修の様子

3.6 第1回都市研究会現場見学会

開催日：2024年11月2日（土）

場 所：莫座九（ござく）・森九商店

参加者：8名

盛岡市の景観重要建造物である莫座九・森九商店の現場見学会を実施しました。七代目店主である森氏から、同店の歴史と現状について説明をいただきました。また、「きららな街」盛岡を作る会の小田中氏からは、莫座九と地域との関わりを説明いただきました。その他には2024年8月に発生した水害について意見交換を行いました。

4. おわりに

今回の活動報告の詳細や、その他の活動内容は、当支部ホームページの活動紹介に掲載しておりますので、興味のある方はぜひ御覧になってください。その他にも、今回の活動報告でお伝えした新春講演会は、YouTubeで配信しておりますので、様々な情報端末から閲覧が可能です。また、2025年度は新たな試みとして、東北本部衛生工学・環境・上下水道部会と合同での現地研修会も計画しています。今後も引き続き、地域に密着した各部会活動を通じて、技術士の知名度向上、資質向上に繋げていきたいと考えています。

（広報委員長 利部 記）

各県支部活動報告**宮城県支部****2024 年度後期活動報告****第 1 回技術委員会主催講演会 ～ 深松組における SDGs の取り組み ～****1. はじめに**

宮城県支部技術委員会では年次大会の記念講演会の企画・運営に加えて、技術委員会単独での講演会を開催しています。2024 年度は 12 月の第 4 回役員会時に開催しました。今回は、仙台市に本社を置き、建設業だけでなく福祉事業や津波被災地における商業施設の開設等幅広い事業を展開している、(株) 深松組代表取締役社長の深松努氏を講師にお迎えし、同社の事業内容の紹介と SDGs への取り組みについて講演していただき、知見を広めることを目的に開催しました。

2. 第 1 回技術委員会主催講演会

開催日：2024 年 12 月 13 日 (金)

場 所：株式会社復建技術コンサルタント 会議室

講 師：深松 努 氏 ((株) 深松組代表取締役社長)

深松氏は 1965 年 3 月生まれ富山県出身で日大理工学部卒業後、前田建設工業 (株) に入社、その後 1992 年 (株) 深松組に入社、2008 年 4 月に代表取締役社長に就任。(一社) 宮城県建設業協会副会長、(一社) 仙台建設業協会会長、(一社) 仙台経済同友会副代表幹事なども務めておられます。また、東日本大震災においては仙台市で発災当初からがれき処理作業責任者として現場の指揮を執り、道路啓開、警察や自治体と協力し遺体捜索に当たりました。さらに、故郷を救いたいという一心で始めた小水力発電プロジェクトで地域を守る仕組みを作り、仙台市の防災集団移転跡地ににぎわいを取り戻すため、複合施設「アクアイグニス仙台」を開業した気鋭の経営者であります (写真 1)。

3. 講演内容

当日は会場 33 名、Web15 名、計 48 名の皆様にご参加いただきました。

講演は深松氏の自己紹介から始まり、深松氏の巧みな話術によって進行され、参加者は思わず身を乗り出して耳を傾けるようなものとなりました。

会社概要の説明から始まり、社是の紹介、事業構想の説明、土木・建築部門、不動産賃貸部門、福祉事業及び社会貢献活動という流れで進められました。



写真 1. 深松 氏による講演の様子

特に印象深かったのは建設業という本来の事業をベースに農業、福祉事業さらにはエネルギー部門まで事業内容を拡大しつつも、社会貢献活動も実施している点です。

具体例として、

- 深松氏の出身地である富山県朝日町笹川地区 (講師曰く限界集落) の簡易水道の老朽化による水道施設更新費用捻出のために小水力発電事業と組み合わせ、問題解決に至ったこと。
- 東日本大震災により被災した仙台市東部沿岸部の集団移転跡地利活用事業に携わり食・農・温泉の複合商業施設「アクアイグニス仙台」を開業したこと。
- 仙台市教育委員会と連携し、部活動支援プロジェクトに参画し、社員として雇用したプロスポーツ経験者を部活動の指導者として派遣していること。等の取り組みを講演いただき、社会貢献活動の意義について改めて考えさせられる機会となりました。

4. おわりに

今後は産・官・学界のバランスを考慮した講師依頼をして講演会を開催する予定です。会員の皆様には今後共ご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

(技術委員会委員長 田子 記)

各県支部活動報告

秋田県支部

2024年度後期活動報告

1. はじめに

秋田県支部では、2024年度後期に「第3回CPD見学会」「第4回CPD講演会」「第5回CPD講習会」の計3回のCPD事業を開催致しました。

以下にその活動概要を報告致します。

2. CPD事業報告

2.1 「TDKエレクトロニクスファクトリーズ(株)・“まちの企業寮 ZiNOBA” 見学会」
(第3回CPD事業)

(2024年10月4日実施 参加者26名)

2024年度の第3回CPDは、TDKエレクトロニクスファクトリーズ(株)とTDKの企業寮である「ZiNOBA(ジノバ)」を見学しました(写真1)。

TDKは磁性技術で世界をリードする総合電子部品メーカーです。スマートフォンやパソコン、電化製品、自動車などで、日々の暮らしを快適で豊かなものに変えています。また、TDKの子会社であるTDKエレクトロニクスファクトリーズは、秋田を拠点にTDKが企画・開発・設計した電子部品を製造しています。一方、由利本荘市にあるTDKの企業寮「ZiNOBA」は、社員食堂や共有スペース、スポーツジムなど地域住民にも開放されています。さらに、企業寮の周辺では病院や学校の建設も含めたまちづくりが進められており、地域と連携して社員の住環境整備が図られています。こういった最先端の技術と共に各施設を実際に見学してきました(写真2)。



写真1. TDKの企業寮「ZiNOVA」での説明の様子



写真2. 本荘工場東サイトでの記念写真

2.2 秋田県支部会員による技術講演会

(第4回CPD事業)

(2025年1月24日実施 参加者66名)

会員による技術発表として、2名の講師を迎え、それぞれの専門に関してご講演いただきました。

講演1：仁井田・四ツ小屋の原野を開拓した偉人
たち

講師：大山 結輝 氏 技術士(農業部門)
(北秋田地域振興局農林部)

米どころ秋田の水田地帯の多くは、江戸時代に盛んに行われた新田開発により形作られています。その主体は藩主・佐竹氏の家臣や村の名士たちですが、農地の開発は広大な土地とコスト、労働力が必要なことに加え、自然条件との戦いでした。今回は、仁井田・四ツ小屋地域の開拓に生涯を捧げた先人エンジニアに焦点を当て、久保田城のお膝元である秋田市の水田地帯が、彼らによってどのように開発されてきたのか、そして今後どのように整備されていくのか、農業土木の視点に立つと、生存・生産を維持することこそが、国土・国力の維持保全に直結する、とわかりやすく紹介していただきました(写真3)。



写真 3. 大山 氏の講演の様子

講演 2：地盤災害アレコレ～これまでの私の拙い経験から～

講 師：栗山 大助 氏 技術士
(建設・森林・応用理学部門)
(奥山ボーリング株式会社)

講師は、これまで土砂災害をはじめとする地盤災害に直面することが多く、様々な現場を経験してきております。そして、「地盤の問題は不確実性が高く、何一つとして同じ現場はありません。日々、悩みながら、迷いながら問題解決することばかりです」と述べております。本講演では、講師の貴重な体験にもとづく地盤災害事例について紹介していただきました。

また、最近では地盤関連においても様々なデジタル技術の活用が進んできており、地盤関連への DX 活用について、①地すべり範囲推定での活用、②すべり面設定での活用、③既設構造物がある地すべりでの活用など、3 点の DX 活用について大変わかりやすく紹介していただきました (写真 4)。



写真 4. 栗山 氏の講演の様子

2.3 「資質向上」講習会 (第 5 回 CPD 事業)

(2025 年 3 月 29 日実施 参加者 60 名)

本年度も特別講師として鳥居直也氏をお迎えし、2 部構成で「資質向上」の講習会を開催いたしました (写真 5)。

午前の部「技術士一般部門の問題解決能力及び課題遂行能力」、午後の部「総合技術監理部門の全体最適化能力」をテーマに、技術者として必要な課題解決能力と応用能力、総合技術監理に関する課題と全体最適能力について講義いただきました (写真 6)。



写真 5. 鳥居 氏の午前講義の様子



写真 6. 鳥居 氏の午後講義の様子

3. おわりに

各 CPD 事業に多くの参加者を迎え開催することができ、見学会、技術情報、資質向上などに対する強い関心や意識を感じられました。

秋田県支部では今後においても、支部会員はじめとする多数の方々の技術研磨に寄与する活動と魅力ある CPD 事業の企画と情報提供に心がけていきたいと考えております。

(企画広報担当 船木 記)

各県支部活動報告

山形県支部

2024年度後期活動報告

～ 技術教養講座・技術者倫理ワークショップ ～

1. はじめに

2024年度の後期の支部活動として、「技術教養講座」「技術者倫理ワークショップ」を実施しましたので報告します。

2. 技術教養講座

「技術教養講座」は、山形県支部の前身である山形県技術士協会の時代から山形県、他協会の後援を得て、継続して実施している事業です。参加費は無料で、技術士会会員のみならず、どなたでも参加できる市民向け教養講座として毎年開催しています。

2.1 2024年度(第30回)技術教養講座の開催概要

開催日：2024年11月15日(金)

場 所：山形県生涯学習センター遊学館ホール

参加者：58名(会員30名、一般28名)

講演内容：

- (1) 「翻訳の仕事を通して見た、サイエンスの動向」～「物理&数学」「遺伝学」「生物&人類学」について～

講 師：青木 薫氏 翻訳家

- (2) SDGsの達成のための高分子材料の開発

講 師：松葉 豪氏

山形大学 大学院有機材料システム研究科

高分子・有機材料工学科 教授

2.2 「翻訳の仕事を通して見た、サイエンスの動向」～「物理&数学」「遺伝学」「生物&人類学」について～

「物理&数学」については、数学分野において紀元前のピタゴラスの定理から1995年のフェルマーの最終定理、その間には谷山・志村予想がある。それらには関連性があり、また物理分野の宇宙論においても、1997年のAdS/CFT対応と2006年の笠-高柳公式も関連性があります。

かけ離れた時代や領域に対してその関連性がそれぞれの領域において、目覚ましい発展の一端を担っ

ています。「遺伝学」については1953年にDNAの構造が発見され、2003年にはヒトゲノムが完全に情報として解読され遺伝学の発展に大きく貢献しました。



写真1. 青木 薫氏による講演の様子

「生物&人類学」については動物たちや植物との向き合い方の変化、AIについての考え方など、各分野の多数の翻訳を通して、物語の翻訳とは違った視点でのサイエンスに係る翻訳の魅力について講演をいただきました(写真1)。

2.3 SDGsの達成のための高分子材料の開発

高分子材料によるプラスチック製品は生活の一部となっており、金属製品とは異なり、再生利用を行うには、その構造上多くの問題があります。高分子の構造についての説明、またその構造解析を行う散乱法や回折法、そこに利用されるX線の特徴について解説いただきました。プラスチックの抱える問題としてマイクロプラスチックや海洋汚染等があり、それらを解決するには既存の材料を改良し省資源化を図る必要があります。そのために「セルロースナノファイバー(CNF)」に着目しました。CNFは優れた補強繊維で自動車部品等への利用に期待されており、その評価方法について研究を行い、樹脂中でのCNFの分散性については評価ができています。



写真 2. 松葉 豪 氏による講演の様子

洋服等に用いられる再生セルロース繊維に CNF 加工を行い、その評価を行う研究では繊維表面の変化や CNF の状況等解析を行っています。

こうした研究を通して SDGs 達成のための材料開発についての講演をいただきました (写真 2)。

(技術委員会 池田 記)

3. 技術者倫理ワークショップ

「山形県支部技術者倫理ワークショップ (以下 WS)」は、支部会員の技術者倫理に関する自己啓発を目的として山形県支部倫理委員会が中心となって開催しているものです。

3.1 開催概要

開催日：2025 年 1 月 24 日 (金)

場 所：山形テルサ 研修室 A

参加者：12 名



写真 3. WS の様子

3.2 内容

(1) 話題提供：近年の不正事例について

説明者：大岩副委員長

説明内容：近年発生している不正事例の概要について説明を行いました。検査データの改ざんのケースが多い傾向にあります。

(2) WS

説明者：玉津 委員

説明内容：WS の題材である「和歌山県八郎山トンネル工事」の工事概要を説明しました (写真 3、表 1)。

表 1. 事例の概要

【倫理問題と経過】

施工業者が覆工コンクリートの厚さ不足を認識しながら工事を継続し、書類を改ざんして検査を突破。発注者の和歌山県も検査を怠り、安全性が大きく損なわれた。工事のやり直しに約 2 年を要し、開通は 2025 年 12 月に延期。和歌山県は施工業者に損害賠償を求め、監督責任を問われた職員 6 人を厳重注意処分とした。

さらに問題の内容、WS の討議に当たってのポイントなどについて説明しました。その後 2 班に分かれて、事例確認を行った後に、リスク・課題の洗い出しや解決策提案について参加者間で意見交換を行いました (図 1)。

最後に、各班から成果発表を行い、情報共有を図りました。参加者からは活発な意見が出され、技術者倫理への意識の高さが伺えました。



図 1. WS のプログラム (倫理委員会 安達 記)

4. おわりに

山形県支部では、本活動報告に記載した外に「小中学生を対象にした出前授業」「ベテランの技術士のインタビュー・語る Be・語り部」などの活動を行っています。ホームページでも発信していますので確認いただければ幸いです。

(広報委員会 伊藤 記)

各県支部活動報告

福島県支部

2024年度後期活動報告

1. はじめに

福島県支部の2024年度、後期活動の一つとして、京都技術士会理科支援チーム（以下RST）との共催により、11月3日（日）～4日（月）に福島市三河台学習センターで開催した「こども理科実験教室2024（福島）」に参加しました（写真1）。

本事業は、東日本大震災復興支援として、RSTのご厚意により、震災後2012年から東北の被災地を訪問し、毎年開催しています。福島県支部所属の技術士は2022年から参画しており、2025年度は、11月にいわき会場での開催を予定しているところです。

本稿では、2024年度後期活動として9月に開催した「第3回CPD研修会」ならびに11月に開催した「第4回CPD研修会」の概要と要旨について報告いたします。



写真1. 京都技術士会と福島県支部のメンバー

2. 第3回CPD研修会

第3回CPD研修会は「東京電力廃炉資料館」と「東京電力福島第一原子力発電所」を視察しました。視察にあたっては、東京電力の視察対応担当者の親切で丁寧な説明と解説がありました。

開催日：2024年9月5日（木）

場 所：（午前）廃炉資料館
（午後）福島第一原子力発電所

参加者：15名

各施設の視察概要は以下のとおりです。

(1) 廃炉資料館視察概要

廃炉資料館は、福島第一原子力発電所の事故とその対応及び廃炉の状況を説明するために整備された

施設です。

資料館では、東京電力の事故の対応状況やその反省と教訓の説明がありました（写真2）。



写真2. 廃炉資料館スタッフによる説明の様子

(2) 福島第一原子力発電所視察概要

廃炉資料館から発電所への往復は、東京電力の専用バスで移動しました。また、発電所内の移動も東京電力の別の専用バスでした。

発電所では、まず入退域管理棟で、本人確認の上一時立入許可証と線量計を受け取り、持ち物チェック後の視察となりました。

福島第一原子力発電所では、日平均4千人を超える人が廃炉業務にあたっており、厳しい環境の中で真摯に取り組んでいることに心より敬意と感謝の念を抱くとともに、除染や瓦礫の撤去等による線量低減、遮水壁の施工による地下水流入の減少など、着実に前へ進んでいることを知り得た非常に有益な視察となりました（写真3）。



写真3. 視察参加者

3. 第 4 回 CPD 研修会

第 4 回 CPD 研修会は、二人の講師をお招きしての貴重な講演会となりました。

日 時：2024 年 11 月 21 日（木）
13:30 ~ 16:30

場 所：コラッセふくしま多目的ホール（福島市）

参加者：対面 24 名、Web 37 名
(ハイブリッド開催)

(1) 講演 1

演 題：再生エネルギー先駆けの地ふくしまでの
地中熱利用

講 師：田中 雅人 氏
(ミサワ環境技術株式会社)

再生可能エネルギーについて詳しく説明をいただきました。各種再生エネルギー方式と比較して導入ポテンシャルが高く、2000 年頃から増加傾向にある地中熱の具体的な利用状況について理解を深め、非常に興味深い内容で新たな知見を得ることができました (図 1)。

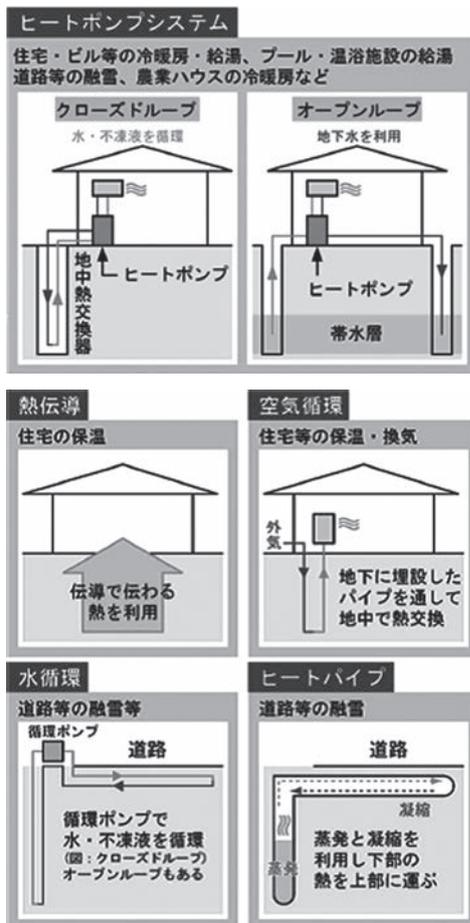


図 1. 地中熱利用方式の種類

(2) 講演 2

演 題：盛土規制法について
講 師：渡邊 真樹 氏

(福島県土木部都市計画課)

2021 年 7 月に静岡県熱海市で起きた大雨による盛土の崩壊を原因とする土石流により、甚大な人的・物的被害が発生したことを契機に制定された、盛土規制法についての主な 4 つの柱、「①スキマない規制」「②盛土等の安全性の確保」「③責任所在の明確化」「④実効性のある罰則の措置」について丁寧な説明をいただきました。この結果、盛土法改正の背景や法の概要について理解を深めることができました。

福島県としての取り組み状況としては、現在までにすべての市町村において区域指定を完了しており、「宅地造成及び特定盛土規制法に基づく許可申請書等の手引き」「盛土規制法に関する技術基準」をまとめるなどして、「盛土規制法」の理解に努めているとのことでした。

以上、二つの講演を拝聴して地球温暖化という課題の解決策の一つである地中熱という技術の動向や県内企業の貢献を知り、技術士の立場として常に問題意識を持ち、社会貢献に寄与することが、私たちの果たすべき使命であると再認識しました。

また、盛土規制法では、社会資本の整備等に関わる技術者として、常に安全・安心を最優先に取り組みなければならないことを痛感することができた有意義な講演となりました。

4. おわりに

福島県支部では、継続する支部活動として、機関紙「たくみ」を年度末の 3 月に発行しております。掲載内容は福島県支部の各委員会活動や特集に関する寄稿、技術論文、技術士試験合格体験記等から構成されます。

本号では、特集として「吉間田滝根線広瀬工区の開通」に関する寄稿や CPD 研修会の各概要につつましても支部会員による参加報告として掲載しております。「たくみ第 25 号」につつましては、執筆いただきました皆様のご協力により 2025 年 3 月に発行することができました (写真 1)。



写真 1. 支部機関紙「たくみ第 25 号」

当支部のホームページでは、本機関紙を Web 版として第 13 号より第 25 号まで掲載しておりますので、皆様にご覧いただくことができます。

(広報委員 清水 記)

わたしの趣味



「生涯剣道」をめざして

清水 泰彦

技術士（建設部門・総合技術監理部門）
 (株) 東コンサルタント 技術部次長

1. はじめに

私の趣味は剣道です。昭和56年に福島県いわき市の(株)東コンサルタントに入社し、勤続40年を迎え、今年63歳となりますが、剣道を再開したおかげで、精神的にも爽快になり、身体的にも生活習慣病の改善につながっており、益々剣道が好きになりました。本稿では、私の生活の一部であり生涯をかけての研究テーマでもある「剣道」について紹介します。

2. 剣道歴（これまでの経緯）

剣道を始めたきっかけは、正直自分の意志ではなく今は亡き母親からの勧めでした。小学5年の時、地元のスポーツ少年団で習い始め、中学、高校まで剣道部に所属していました（写真1）。私にとって剣道は、決して楽しいものではありませんでした。どちらかといえば苦しかったのが本音で、高校卒業と同時に剣道から離れていきました。剣道は、他のスポーツのように楽しむゲーム的な要素が少ないこともあってか、当時は剣道の奥深さ、すばらしさに気づいていなかったのです。

就職してから、高校時代剣道部の同期（親友でもあり先生でもある現在剣道教士七段）からの誘いで剣道を再開しましたが、業務上、残業が多く稽古時間の確保が困難であることから、途中で断念せざるを得ませんでした。入社以来50代前半までは業務多忙により心に余裕をもつことができず、心身のバランスを崩し、苦しくつぶれそうな時期もありました。しかし、一念発起、技術士試験受験に挑戦し、幸運にも初受験で合格することができたことが私にとって大きな転機となりました。合格後はCPD（継続教育）として専門技術のみならず「人間力」を高めるための研鑽も必要であると考え、自己啓発や剣

道に関する図書を読み漁るなかで、剣道は日本の伝統文化であると同時に「人間形成」を目指すという側面をもつものだと気づき、50代半ばから剣道を再開することを決意しました。

現在は、毎週2回（午後7時～9時）のペースで稽古に通い、小、中、高校生、社会人の先生方と共に剣道に取り組んでいます。永く剣道から離れていたため、再開当初は息が上がり、体力的にきつかったのですが、徐々に慣れ、稽古を地道に継続した結果、令和2年に全日本剣道連盟剣道四段に昇段、今年の2月24日には、剣道五段に昇段することができました。感謝の念でいっぱいであります（写真2）。



写真1. 前列右から2人目が私（高校3年時）
 前列右から6人目は恩師根本邦男先生(故)

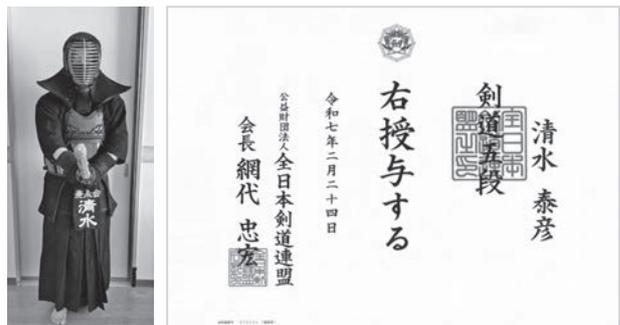


写真2. 剣道五段への昇段（令和7年2月）

3. 剣道とは

(1) 剣道の理念

剣道は、永い年月をかけて培われてきた日本の伝統文化なので簡単に言い表すことは非常に難しいのですが、全日本剣道連盟では、剣道の理念（目的）を「剣の理法の修練による人間形成の道である」と定義しています。

つまり剣道の稽古（練習）をすることによって「人間を磨く」ということなのです。

(2) 剣道修練の心構え

現在、全日本剣道連盟では剣道修練の心構えを「剣道を正しく真剣に学び、心身を錬磨して、旺盛なる気力を養い、剣道の特性を通じて、礼節をとうとび、信義を重んじ誠を尽して、常に自己の修養に努め、以って国家社会を愛して広く人類の平和繁栄に寄与せんとするものである」としています。

剣道を通して人間を磨き、そこで学んだことを広く社会の繁栄のために貢献できる人間を育む、これこそが「剣道」なのです。

4. 日頃意識（実践）していること

(1) 礼節

武道の有名な言葉に「礼に始まって礼に終わる」は皆さんも一度は聞いたことがあるのではないのでしょうか。「礼の心」とは相手を思いやる心、相手への感謝の心とその根底にあると私は思います。剣道は、稽古練習も試合も相手がいて初めて成立します。実生活においてもこの礼節を尊び、人に対して思いやりの心を持って接するように心がけています。

(2) 調身、調息、調心

あわただしい日常の中で非日常を求め、心を整えるために、毎朝ちょっと早起きして20分間坐禅を組んでます。坐禅とは、まず姿勢を整え、次に呼吸を整え、最後に心を整えること。この三つが整ってはじめて坐禅となります。「静かに座る」たった20分ですが心を整えるために自分にとってなくてはならない大切な時間となっています。

(3) 丹田呼吸法

呼吸法というのは、言うまでもなく「呼吸のしかた」のことですが、自律神経のなかで唯一、意識下でコントロールできるものだそうです。剣道では、息を吸っている時は「虚」（隙や油断のある状態）になりやすく、吐いているときは「実」（隙や油断

のない状態）だと言われています。つまり、息を吸っている時に人間はとっさに動けないということです。人間は呼吸を止めることはできないので相手の呼吸がわかったら、相手の吸っている時に攻めていく、打っていく、ことができれば、勝てる確率は格段に上がります。逆に自分が吸うときは注意しなくてはなりません。そこでできるだけ吸っている時間は短く、吐いている時間を長くする呼吸が必要となります。

以下に、私が朝の坐禅、稽古の際に実践している丹田呼吸法の一例を示します。

【丹田呼吸法の手順の一例】

- ①身体のコわばりを解き、丹田（へそ下5cm）を意識する。
- ②丹田を意識（かたく）して息を吐き切る
- ③息を鼻から吸い込みながら丹田を膨らませる
- ④4カウントで吸い、8カウントで吐く

丹田呼吸法は、お釈迦さまが用いられた呼吸法と言われています。緊張の緩和、自然治癒力向上や姿勢も良くなる効用があります。是非お勧めします。

5. 剣道以外の文化から学ぶ

江戸時代後期の剣客、島田虎之介が残した私の好きな名言があります。

「剣は心なり。心正しからざれば、剣又正しからず。剣を学ばんと欲するものは、まず心を学べ」です。

心を学ぶためには、剣道以外の文化から学ぶことも必要であると気づきました。というのも剣道には他の日本文化と共通する部分が見られるからです。例えば、茶道には「一期一会」という考え方があり、茶室の中で主人と客が共有する時間や空間を大切にしています。これは、剣道でも同様に将来二度と合わないかもしれない相手に敬意を払い、共有する時間と空間の中で全力を尽くし稽古します。

6. おわりに

剣道は、私を日々成長させてくれています。丈夫に生み育ててくれた亡き父母の恩、剣道を伝統文化とする日本という国への恩、教え導いてくれた師への恩、共に切磋琢磨してきた剣友への恩、この四つの恩に感謝の念をもって剣道を通じて人間を磨き「生涯剣道」を全うすることが、今の私の目標です。

お知らせ

2025年度会長表彰受賞者

日本技術士会 第67回定時総会が2025年6月16日（月）大手町サンケイプラザにて行われ、東北本部から以下8名の方が2025年度日本技術士会会長表彰となりましたのでお知らせします。

氏 名	功 績
佐藤 泰法 	会員歴35年以上にわたり、本会の発展に貢献された。
武田 芳丈 	長年にわたり東北本部幹事並びにITS研究委員会委員長として東北本部活動に尽力し、東北本部並びに本会の発展に貢献された。
末岡 真純 	長年にわたり東北本部幹事並びに倫理研究委員会委員長として東北本部活動に尽力し、東北本部並びに本会の発展に貢献された。
山田 育夫 	長年にわたり農業部会幹事・部会長及び東北本部幹事として東北本部活動に尽力し、東北本部並びに本会の発展に貢献された。
黒墨 秀行 	長年にわたり部会幹事を務め、部会長も2期務めており、部会並びに本会の発展に貢献された。
岸 憲之 	長年にわたり宮城県支部幹事、豊年技術士懇談会委員長を務め、本会の発展に貢献された。
河合 直樹 	長年にわたり支部幹事、支部技術委員会委員、支部社会学習委員会副委員長、同委員長を務め、支部並びに本会の発展に貢献された。
八巻 誠一 	長年にわたり福島支部幹事、広報委員を務め、本会の発展に貢献された。

お知らせ

2024年度後期新規入会者

日本技術士会東北本部への2024年度後期新規入会者は表1に示すとおりで、正会員入会者10名、準会員入会者5名の合計15名となります。

また、2025年5月23日現在の東北本部における支部別会員数は表2に示すとおりで、会員総数は1,403名となっています。

表1. 日本技術士会東北本部入会者一覧（2024年10月～2025年3月入会分）

〔正会員〕

氏 名	技術部門	所在地	所 属
北村 安	建設	岩手県	(株) 土木技研 品質管理グループ
澤久保 学	建設	岩手県	(株) 土木技研 土木施設設計グループ
下川 憲	建設	岩手県	岩手県盛岡広域振興局土木部 道路整備課
藤戸 孝幸	機械	岩手県	盛岡セイコー工業 型技術課
浅沼 秀雄	建設	宮城県	西松建設 (株) 北日本支社土木技術部
石崎 正剛	建設	宮城県	陽光建設 (株) 安全部
尾崎 幸男	建設、総合技術	宮城県	(株) 大本組 東北支店土木部
加藤 史子	建設	宮城県	(株) 建設技術研究所
山田 敏之	建設	宮城県	(株) 建設技術研究所 東北支社道路・交通部
石幡 和也	建設	福島県	新協地水 (株) 技術部

正会員入会者 10 名

〔準会員〕

氏 名	技術部門	所在地	所 属
金子 哲也	応用理学	青森県	東京電力ホールディングス (株) 青森事業本部東通建設プロジェクト統括室
丹野 慶汰	建設	宮城県	宮城県庁 土木部港湾課
新沼 威宏	建設	宮城県	宮城県企業局 水道経営課
松田 宏一	建設	宮城県	国土交通省山形河川国道事務所 置賜流域治水出張所
岡崎 祐樹	環境	福島県	福島県環境検査センター 分析部

準会員入会者 5 名

表 2. 日本技術士会東北本部会員数

2025年5月23日現在

県	会員	準会員	名誉会員	合計
青森県	109	23	1	133
岩手県	127	18	1	146
宮城県	552	60	4	616
秋田県	129	14	0	143
山形県	105	19	0	124
福島県	192	48	1	241
合計	1214	182	7	1403

注) 本部会員数は、技術士会ホームページの「Web名簿検索システム」から集計

お知らせ

2025年度協賛団体

日本技術士会東北本部における2025年度協賛団体様は、表1に示すとおりで、青森県支部が15社、岩手県支部が17社（1社減）、宮城県支部が98社（1社増）、秋田県支部が5社、山形県支部が29社、福島県支部が10社（1社増）、全体で174社（1社増）となっています。

また、日本技術士会東北本部では協賛団体会員入会の募集を行っています。詳細は、東北本部のホームページをご覧ください。

※（ ）内の数値は、2024年11月時点との対比です。

表1. 日本技術士会 東北本部 協賛団体

2025年5月23日現在

■青森県支部の協賛団体（15社）		
エコウコンサルタント株式会社	エイト技術株式会社	株式会社キタコン
株式会社コサカ技研	株式会社コンテック東日本	株式会社しんとう計測
セントラル技研株式会社	株式会社測地コンサルシステム	株式会社大成コンサル
東北建設コンサルタント株式会社	株式会社日測コンサルタント	ハートエンジニアオフィス株式会社
株式会社八光コンサルタント	穂積建設工業株式会社	株式会社みちのく計画
■岩手県支部の協賛団体（17社）		
株式会社アースデザインコンサルタンツ	株式会社一測設計	株式会社岩手開発測量設計
大坂建設株式会社	刈屋建設株式会社	三陸土建株式会社
昭栄建設株式会社	株式会社昭和土木設計	株式会社タカヤ
株式会社東開技術	東北エンジニアリング株式会社	株式会社土木技研
豊島建設株式会社	株式会社南部測量	株式会社平野組
株式会社藤森測量設計	菱和建设株式会社	
■宮城県支部の協賛団体（98社）		
株式会社秋元技術コンサルタンツ	株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング 東北支社	アジア航測株式会社
株式会社安藤・間東北支店	e-JEC 東日本株式会社	株式会社いであ 東北支店
伊藤組土建株式会社東北支店	岩倉測量設計株式会社	岩田地崎建設株式会社東北支店
株式会社ウエスコ東北事務所	株式会社エイト日本技術開発東北支店	株式会社 エース 仙台営業所
エヌエス環境株式会社東北支社	株式会社大江設計	株式会社オオバ東北支店
大橋調査株式会社	株式会社大林組東北支店	〇・T・テクノリサーチ株式会社
株式会社奥村組東北支店	株式会社オリエンタルコンサルタンツ東北支社	オリエンタル白石株式会社
鹿島建設株式会社東北支店	川崎地質株式会社北日本支社	基礎地盤コンサルタンツ株式会社東北支社
株式会社キタック仙台事務所	株式会社協和コンサルタンツ東北支社	株式会社近代設計 東北支社
株式会社熊谷組東北支店	株式会社建設技術研究所東北支社	株式会社構研エンジニアリング
株式会社光生エンジニアリング	国際航業株式会社	国土防災技術株式会社東北支社
五洋建設株式会社	佐藤工業株式会社東北支店	株式会社サトー技建
佐野コンサルタンツ株式会社	株式会社三協技術	サンコーコンサルタント株式会社東北支店
清水建設株式会社東北支店	ショーボンド建設株式会社北日本支社	株式会社新星コンサルタント東北支社

株式会社新日本興発コンサルタント	仙建工業株式会社	株式会社仙台土木設計
セントラルコンサルタント株式会社東北支社	大成建設株式会社東北支店	大日本ダイヤコンサルタント株式会社東北支社
株式会社ダイワ技術サービス	株式会社竹中土木東北支店	中央開発株式会社東北支店
中央復建コンサルタンツ株式会社東北支社	株式会社長大仙台支社	株式会社千代田コンサルタント東北支店
株式会社テクノ東北	株式会社テクノ長谷	鉄建建設株式会社東北支店
東亜建設工業株式会社東北支店	東急建設株式会社東北支店	株式会社東建工営
東光電気工事株式会社東北支社	株式会社東北開発コンサルタント	一般社団法人東北測量設計協会
東北ボーリング株式会社	東北緑化環境保全株式会社	株式会社ドーコン 東北支店
戸田建設株式会社東北支店	飛鳥建設株式会社東北支店	土木地質株式会社
西松建設株式会社東北支店	日本工営株式会社仙台支店	日本工営都市空間株式会社仙台支店
株式会社日本水工コンサルタント東北支店	日本ハイウエイ・サービス株式会社仙台支店	株式会社日水コン東北支所
株式会社NIPPO 東北支店	株式会社ネクスコ・エンジニアリング東北	株式会社ネクスコ・メンテナンス東北
パシフィックコンサルタンツ株式会社東北支社	株式会社 パスコ東北事業部	ピーエス・コンストラクション株式会社東北支店
東日本コンクリート株式会社	日野測量設計株式会社	株式会社福田水文センター東北支店
株式会社福山コンサルタント東北支社	株式会社フジタ東北支店	株式会社復建エンジニアリング 仙台支社
株式会社復建技術コンサルタント	北武コンサルタント株式会社仙台事務所	前田建設工業株式会社東北支店
みちのくコンサルタント株式会社	三井住友建設株式会社東北支店	株式会社宮城環境保全研究所
宮城県土地改良事業団体連合会	八千代エンジニアリング株式会社東北支店	株式会社ユアテック
陽光建設株式会社	リコージャパン株式会社	
■秋田県支部の協賛団体（5社）		
株式会社石川技研コンサルタント	株式会社ウヌマ地域総研	株式会社創研コンサルタント
株式会社測地コンサルタント	株式会社三木設計事務所	
■山形県支部の協賛団体（29社）		
株式会社朝日測量設計事務所	安達技術士事務所	株式会社春日測量設計
株式会社協同測量設計センター	株式会社工藤測量設計	株式会社ケンコン
株式会社寒河江測量設計事務所	株式会社佐藤工務	三協コンサルタント株式会社
株式会社三和技術コンサルタント	有限会社ジステム	株式会社庄内測量設計舎
株式会社新東京ジオ・システム	新和設計株式会社	株式会社菅野測量設計
株式会社鈴木測量事務所	スリーエー株式会社	株式会社成和技術
株式会社大成技術コンサルタント	大和工営株式会社	株式会社高田地研
株式会社田村測量設計事務所	株式会社出羽測量設計	日本地下水開発株式会社
株式会社双葉建設コンサルタント	山形県建設コンサルタント協会	山形県土地改良事業団体連合会
株式会社結城測量設計コンサルタント	株式会社横山測量設計事務所	
■福島県支部の協賛団体（10社）		
株式会社東コンサルタント	株式会社アーバン設計	株式会社北日本ボーリング
株式会社郡山測量設計社	佐藤工業株式会社	株式会社大地設計
日栄地質測量設計株式会社	藤田建設工業株式会社	陸奥テックコンサルタント株式会社
山北調査設計株式会社		

お知らせ**機関誌「ガイアパラダイム」への広告募集について**

日本技術士会東北本部の機関誌「ガイアパラダイム」は会員相互の技術の研鑽及び専門外情報の共有等を目的として年 2 回（1 月、7 月）発行しています。本誌は東北の 21 技術部門で活躍する会員技術士、技術士補のみならず日本技術士会東北本部協賛団体ならびに東北の主要省庁・主要自治体、技術系大学・高専及び関係機関に寄贈させて戴いており発行部数も 1,800 部を超えております。

現在、ガイアパラダイムの企業広告募集を行っております。詳細は下記を参照願います。

記

- 1. 掲 載 方 法：**①機関誌「ガイアパラダイム」に広告を掲載いたします。
発行年 2 回（1 月、7 月）、発行部数 1,800 部。
②日本技術士会 東北本部協賛団体様は、優先的に掲載いたします。
- 2. 掲 載 月：**2026 年 1 月発行（ガイアパラダイム 82 号）及び 2026 年 7 月発行（ガイアパラダイム 83 号）
- 3. 配 布 先：**東北地域の主要省庁・主要自治体、技術系大学・高専、会員及び関係機関です。
- 4. 掲 載 内 容：**御社ご指定内容（事業内容・御社名・代表者名、所在地・電話番号他）を掲載いたしますが、掲載内容につきましては本誌の主旨に沿う内容であるかの事前審査をさせていただきます。場合によっては掲載できない場合もありますのでご了承願います。
- 5. 広告掲載サイズと色：**
掲載サイズは A 4 判、A 5 判の 2 種類から選択していただきます。
色は白黒です。
- 6. 広告掲載料金：**① A4 判 50,000 円 / 回（税抜き）
② A5 判 30,000 円 / 回（税抜き）
- 7. 申 込 み 方 法：**申込み用紙に必要事項をご記入し、下記連絡先まで送信して下さい。また、掲載内容を鮮明に印刷した原稿、あるいは電子データの送付をお願いいたします。
- 8. 申 込 み 期 限：**ガイア発行月の 3 ヶ月前の 1 日とさせていただきます。
82 号（2026 年 1 月 1 日発行）の掲載申込み締切は、2025 年 10 月 1 日となります。
- 9. お支払い方法：**広告掲載後、お振込み依頼書・ご請求書・指定口座用紙を送付させていただきます。
- 10. 掲 載 確 認：**広告掲載の機関誌「ガイアパラダイム」1 冊を送付させていただきます。
- 11. 連 絡 先：**日本技術士会東北本部 事務局 吉川 毅
〒 980-0012 仙台市青葉区錦町一丁目 6 番 25 号
Tel : 022-723-3755 fax : 022-723-3812
E-mail : tohokugijutushi@nifty.com

FAX申込先：022-723-3812 (東北本部)

E-mail：tohokugijutushi@nifty.com

日本技術士会東北本部 事務局 吉川 毅 宛

機関誌「ガイアパラダイム」広告申込み用紙

申込み日： 年 月 日

掲載希望月： 年 1月発行、7月発行 (該当月に○をお願いします。)

：今回のみ。 ：継続希望 (掲載前に確認させていただきます。)

会社・事業者名： _____

住 所：〒 _____

代 表 者 名： _____

担 当 者：部署名： _____ 氏名： _____

メー ル： _____ @ _____

T e l： _____ - _____ f a x： _____ - _____

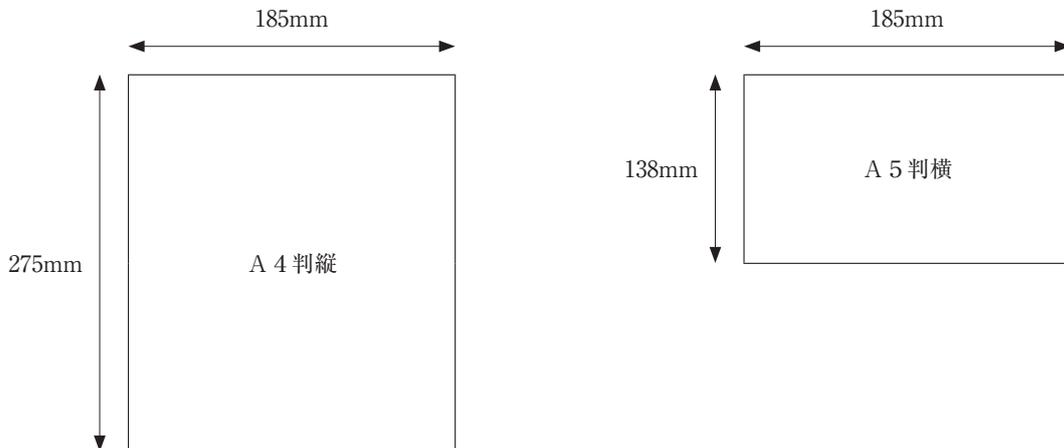
お申込み内容を下記より選択し、ご希望の項目にチェックマークを入れてください。

掲載広告のサイズ： A 4 判縦 (50,000円)(税抜き) A 5 判横 (30,000円)(税抜き)

広告レイアウトの： 郵送 メール 他 ()
引渡し方法

お支払い方法： 指定口座用紙振込み 他 ()

※ 広告レイアウト：下図を参考にオリジナル原稿を作成願います。



あ と が き

昨年 5 月に転勤で仙台に移住してから、ちょうど 1 年目を迎えました。私は出身が鹿児島県の奄美大島であり、高校時代まで離島で過ごした後、大学は福岡、就職は東京と、徐々に北上しつつ、今回、初の東北地方での生活となりました。

仙台に移住後は、るーぶる仙台に乗り、瑞鳳殿や青葉城跡、メディアテーク、定禅寺通りと観光し、牛タン、ずんだ餅に舌鼓するなど、仙台生活を楽しんでます…と、一通りの感想文を書こうと思いましたが、いいオチが思いつかず、生成 AI に書いてもらうことにしました。

AI「仙台での生活もうすぐ 1 年。最初は東北の寒さに驚きつつも、街の温かさに次第に心がほぐれていくのを感じました。青葉通りのケヤキ並木が四季折々の表情を見せ、定禅寺通りのカフェでほっと一息つく時間は、東京や福岡とはまた違った落ち着きがあります。瑞鳳殿や青葉城跡を巡り、伊達政宗公の歴史に触れるたびに、仙台という街が持つ気品と誇りを感じました。それにしても、牛タンは想像以上の美味しさでした。さすが名物、どこで食べても外れなし。しかし、ある日「この牛タン、奄美の豚足に負けるかも」とふと思ったことに気づき、

地元愛の強さを再認識。仙台の魅力にどっぷり浸かりながらも、奄美の味を恋しく思うこのバランスこそが、私の「東北移住一年目」のリアルな感想かもしれません」。

いかがでしょうか。生成 AI の文章の出来に驚嘆し、さも私が書いたことにしようと思いましたが、技術者倫理が思い止めてくれました。

「次第に心がほぐれていく」「気品と誇りを感じる」等、私が普段使わない表現を使っている時点で、「私らしさ」のない文脈として、昨今の生成 AI の課題と結論付けようとも思いましたが、果たしてそうでしょうか。少なくとも、今回このような表現を知ったことで、街を散策した際は、このような思いを馳せる可能性があります。生成 AI が生み出した表現が干渉し、私の感性をより豊かにしているとも言えます。重要なのは、英知が生み出したこの技術とうまく向き合い、活用することだと思いました。時に模倣しつつ、自分の言葉として昇華し、より豊かな表現力を身につけられたらと思った次第です。…技術者倫理の範疇で。

(広報委員 中江 記)

■ 広報委員会委員

委員長

伊藤 貞二 (建設、総合技術)

委員

・ 会誌検討会

丹 収一 (建設、総合技術)

大重兼志郎 (建設)

小沼千香四 (建設、応用理学、総合技術)

利部 哲 (建設、環境)

小松 孝輝 (上下水道、総合技術)

村上 康裕 (建設、総合技術)

柴田 友禧 (建設、総合技術)

田中 菜摘 (建設、環境、総合技術)

橋本 純 (応用理学)

中江 亮太 (建設、総合技術)

浅沼 秀雄 (建設)

・ 広報検討会

有馬 義二 (建設)

宮崎 典男 (建設)

県支部広報担当

・ 青森県 芳賀 光幸 (建設、農業、総合技術)

・ 岩手県 利部 哲 (建設、環境)

・ 宮城県 梶谷 真 (建設)

・ 秋田県 浅川 敬公 (建設、応用理学)

・ 山形県 伊藤 信生 (建設)

・ 福島県 宮崎 典男 (建設)

技術士東北 第 81 号 (No.2 2025)

2025 年 7 月 1 日発行

公益社団法人 日本技術士会東北本部

〒 980-0012 仙台市青葉区錦町 1-6-25 宮酪ビル 2F

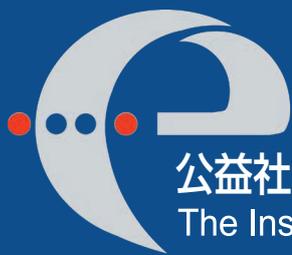
TEL 022-723-3755 FAX 022-723-3812

E-mail : tohokugijutushi@nifty.com

http://www.tohoku.gijutusi.net/

編集責任者：東北本部・広報委員会 (責任者 伊藤貞二)

印刷所：本田印刷(株) TEL 022-288-5231(代)



公益社団法人 日本技術士会 東北本部
The Institution of Professional Engineers, Japan

